

科目名	教科教育法 I-1 (英語)		科目ナンバリング	T-TLEN2-00. NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10054		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	講義	単独	
	教員免許 (英語)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>英語教育について、その目的、言語習得理論との関連、教授法等を考察する。(これにより中学校及び高等学校における外国語 (英語) の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。)</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>2-1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-3) 話すこと (やり取り・発表) の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-13) ALT等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>3-1) 学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>3-2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	日本の英語教育 (1)			日本における英語教育について学ぶ。4技能指導について学生の経験についてグループディスカッション。						
第2回	日本の英語教育 (2)			国際共通語としての英語、日本の英語教育について考える。学生の経験についてグループディスカッション。						
第3回	学習指導要領			学習指導要領について学ぶ。指導要領についてグループディスカッション。						
第4回	小学校英語教育			小学校における英語教育、小・中・高等学校の連携について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				小論文1提出		
第5回	第二言語習得研究 (1)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				学生発表		
第6回	第二言語習得研究 (2)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				学生発表		
第7回	第二言語習得研究 (3)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				学生発表		
第8回	学習者			学習者の個人差について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				小論文2提出		
第9回	チーム・ティーチング			ALTとチーム・ティーチング、または国際文化について指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第10回	評価			評価について学ぶ。評価のしかたについてディスカッション。						
第11回	英語の音声と文字の指導			英語の音声、文字の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。(レポート説明)						
第12回	語彙・表現の指導			語彙の指導、英語4技能・表現の指導について学ぶ。授業にICTの使い方について説明します。						
第13回	文法の指導			文法の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第14回	英語の授業			英語の授業に使う指導案について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第15回	まとめ			英語教育の学んだことについてまとめます。				レポート提出		
評価方法及び評価基準	レポート60%、小論文10%、発表10%、授業への参加20% (レポート・小論文・発表を内容と英語の使い方をルーブリック評価します)。到達目標に向けて基礎理解のための課題が適切な方法できているか、授業内容を踏まえ自分の考えが明確に表現できているかを評価する。									
課題等	レポートは準備段階から個別に対応する。各授業で学生がパソコンやスマートフォンを使うことである。									
事前事後学修	各授業時のテーマについてあらかじめ読み、疑問点や自分の考えなどを整理して授業内の議論に備える。発表に備えて授業で取り上げたテーマに関連する文献を読む。提出物を仕上げる事で授業内容の復習、確認をする。議論や発表など授業を通して学んだ事を踏まえ、考えた事について書く (課題1~2)。レポートを書くにあたってはテーマを選び、関連の文献を読むことでより深く学び考える。授業外における学習に費やす時間の目安は週3時間程度。									
教材教科書参考書	『グローバル時代の英語教育』成美堂出版 岡 秀夫 編著 (2010年 ISBN: 978-4-7919-3099-9) 中学校学習指導要領 (最新版) 及び同解説; 高等学校学習指導要領 (最新版) 及び同解説									
留意点	授業見学と集中講義を夏季休業中に実施する。欠席する場合、できれば事前に知らせることが必要となる。									

科目名	教科教育法 I-2(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN2-01.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10055		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	【授業の主旨】									
	中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。									
到達目標	2-1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-3) 話すこと(やり取り・発表)の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。					2-10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。 2-13) ALT等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。 3-1) 学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。 3-2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。				
	授 業 計 画									
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	科目説明と英語コミュニケーションの議論			コース目的を説明して、コミュニケーションのやり方について議論				グループディスカッション		
第2回	4技能とタスク・ベースの英語指導			4技能とタスク・ベースの英語指導について議論。学生の経験についてグループディスカッション。				タスク・ベース指導の準備		
第3回	学生発表			タスク・ベース指導について学生が発表する。学生の経験についてグループディスカッション。				タスク・ベース指導デモンストレーション		
第4回	リスニング指導			リスニング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				リスニング課題説明		
第5回	スピーキング指導			スピーキング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				スピーキング課題説明		
第6回	リスニング・スピーキング指導練習			学生がリスニングとスピーキングアクティビティを指導する				L・S指導デモンストレーション		
第7回	リーディング指導			リーディング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				リーディング課題説明		
第8回	ライティング指導			ライティング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				ライティング課題説明		
第9回	リーディング・ライティング指導練習			学生がリーディングとライティングアクティビティを指導する				R・W指導デモンストレーション		
第10回	英語の授業でのICTの使い方			英語の指導でのICTの使い方について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第11回	チームティーチング			ALTとチームティーチングについて学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第12回	欧米文化指導			英語と欧米文化の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				文化関係課題説明		
第13回	指導案の作り方			指導案の作り方について学ぶ。小論文の説明。				指導案を作る		
第14回	英語の授業デモンストレーション			英語の模擬講義；小論文について考える				英語の授業デモンストレーション		
第15回	英語の授業デモンストレーション			英語の模擬講義；小論文を提出				英語の授業デモンストレーション；小論文		
評価方法及び評価基準	授業見学と授業評価：30%；英語の模擬講義(内容とスタイル)：30%；小論文(内容と英語正確さ)：30%；宿題と授業への参加：10%。(課題・小論文・発表を内容と英語の使い方をルーブリック評価します)									
課題等	課題等は次時間に返却するが、不十分な場合は再提出とする。各授業で学生がパソコンやスマートフォンを使うことである。									
事前事後学修	授業で紹介する文書を読んでください。読んだ文書について、説明発表をしてもらいます。準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	『グローバル時代の英語教育』成美堂出版 岡 秀夫 編著 (2010年 ISBN: 978-4-7919-3099-9) 中学校学習指導要領(最新版)及び同解説；高等学校学習指導要領(最新版)及び同解説									
留意点	授業見学と集中講義が夏季休業中に実施する。欠席する場合、できれば事前に知らせることが必要となる。									

科目名	教科教育法ⅡA(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-02.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L10074		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治				授業 形態	講義	単独
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 英語科における授業設計、教材研究、授業実践、授業分析の方法について実践的かつ省察的に学ぶとともに、英語科の授業が抱える課題を検討する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	学習指導案の作成、授業実践及び授業分析を通して英語科の授業のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「私が受けた英語科の良い授業」(第2回授業時提出)					講義・ディスカッション	
第2回	英語科の目標と内容			学習指導要領にみる小学校・中学校・高等学校の目標及び内容					講義	
第3回	授業設計(1)			目標分析による目標設定、年間指導計画、単元の指導計画の策定					講義	
第4回	授業設計(2)			評価計画の策定、1単位授業時間の授業構成、教師の役割					講義	
第5回	授業設計(3)			代表的な教授学習活動、教材・教具の準備					講義	
第6回	教材研究(1)			教材研究の目的と方法、教材分析、教材解釈					講義	
第7回	教材研究(2)			教材研究と授業設計 履修学生による教材研究演習					講義・PBL	
第8回	まとめ+試験			(中間)まとめ+試験の実施					講義・試験	
第9回	学習指導案の作成(1)			学習指導案の目的と役割、学習指導の種類と内容 マイクロティーチング(1)に向けての学習指導案の作成					講義・PBL	
第10回	マイクロティーチング(1)			履修学生によるマイクロティーチング(1) プレゼンテーションツール等を用い、10分程度の模擬授業を行う					模擬授業・ディスカッション	
第11回	授業分析(1)			授業分析の方法と実践 マイクロティーチング(1)の授業分析の実践					講義・PBL・ ディスカッション	
第12回	学習指導案の作成(2)			マイクロティーチング(2)に向けての学習指導案の作成					PBL	
第13回	マイクロティーチング(2)			履修学生によるマイクロティーチング(2) プレゼンテーションツール等を用い、10分程度の模擬授業を行う					模擬授業・ディスカッション	
第14回	授業分析(2)			マイクロティーチング(2)の授業分析の実践					講義・PBL・ ディスカッション	
第15回	英語科授業の課題及びまとめ			英語科授業の課題について履修学生によるディスカッション レポート②「コミュニケーション能力の基礎を養う授業とは」					講義・ディスカッション	
評価方法及び評価基準	試験(50%)、学習指導案の作成(20%)、マイクロティーチング(20%)、レポート(10%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科における授業のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教科書参考書	<p>「新・英語教育学概論[改訂第2版]」(高梨庸雄 他 著、金星堂) ISBN 978-4-7647-4186-7  「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685  「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692  「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784</p>									
留意点	英語科における学習指導、授業のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。 後期において「教科教育法ⅡC(英語)」を受講するには、本科目を履修していなければならない。									

科目名	教科教育法ⅡB(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-03.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10075		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 言語テスト理論の基礎を概観し、英語科におけるテスト及び学習評価の方法について実践的に学ぶとともに、それらが抱える課題を検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	英語科におけるテスト作成を通して言語テスト理論の基礎並びに英語科におけるテスト及び学習評価のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	オリエンテーション			授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「私が受けた英語科の良いテスト」(第2回授業時提出)				講義・ディスカッション		
第2回	テストと評価			測定とテスト、形成的評価と総括的評価、波及効果				講義		
第3回	テストの目的と種類			熟達度テスト、到達度テスト、診断テスト、配置テスト				講義		
第4回	テストの妥当性(1)			構成概念妥当性、内容妥当性と基準関連妥当性				講義		
第5回	テストの妥当性(2)			採点における妥当性、妥当性を高めるために				講義		
第6回	テストの信頼性(1)			テスト問題の信頼性、採点上の信頼性				講義		
第7回	テストの信頼性(2)			信頼性を高めるために、信頼性と妥当性				講義		
第8回	まとめ+試験			(中間)まとめ+試験の実施				講義・試験		
第9回	テストの波及効果			有益な波及効果と有害な波及効果、有益な波及効果をもたらすために				講義		
第10回	テスト細目規定			テスト細目規定の目的と役割、テスト細目規定の作成				講義・PBL		
第11回	英語科到達度テストの作成			履修学生による英語科の到達度テストの作成				PBL		
第12回	英語科到達度テストの発表			履修学生による各自が作成したテストの発表 プレゼンテーションツール等を用い、短時間でわかりやすく発表する				プレゼンテーション・ディスカッション		
第13回	英語科到達度テストの分析			テスト分析の方法と実践 履修学生による各自が作成したテストの分析				講義・PBL・ディスカッション		
第14回	英語科におけるテストと学習評価			形成的テストと総括的テスト、テスト以外の評価方法				講義		
第15回	英語科におけるテストと評価の課題及びまとめ			英語科におけるテストと評価の課題について履修学生によるディスカッション、レポート②「有益な波及効果をもたらす英語科テスト」				講義・ディスカッション		
評価方法及び評価基準	試験(50%)、テストの作成(30%)、レポート(20%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科におけるテスト作成のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教材教科書参考書	「新・英語教育学概論[改訂第2版]」(高梨庸雄 他 著、金星堂) ISBN 978-4-7647-4186-7 「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意点	英語科におけるテスト・評価のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。									

科目名	教科教育法ⅡC(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-04.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10085		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	選択								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 外国語教育における意味と形式の指導の統合を目指すアプローチである「フォーカス・オン・フォーム」(FonF)の理論的背景及び指導原理を概観した上で、中学校・高等学校の英語科授業への応用可能性とその課題について検討し、コミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について考究する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	FonFのアプローチに基づく具体的な教授学習活動の作成演習を通して、中学校・高等学校の英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「コミュニケーション能力とは何か」(第2回授業時提出)				講義・ディスカッション		
第2回	外国語教育とコミュニケーション能力(1)			コミュニケーション能力とその構成要素				講義		
第3回	外国語教育とコミュニケーション能力(2)			外国語教育で育成を目指すコミュニケーション能力				講義		
第4回	外国語教育における意味と形式の指導(1)			外国語の意味と形式の指導				講義		
第5回	外国語教育における意味と形式の指導(2)			外国語教育における意味と形式の指導の変遷、PPPアプローチ				講義		
第6回	FonFの理念と指導原理(1)			FonFとその特徴、FonFの指導原理				講義		
第7回	FonFの理念と指導原理(2)			FonFによるコミュニケーション能力の発達、場面・文脈の活用とFonF				講義		
第8回	まとめ+試験			(中間)まとめ+試験の実施				講義・試験		
第9回	FonFの指導技術(1)			「スキル」としての文法指導、「先取り型」と「反応型」のFonF				講義		
第10回	FonFの指導技術(2)			FonFによるQ-A活動の工夫、FonFによるタスクの工夫				講義		
第11回	FonFに基づく教授学習活動の作成			履修学生によるFonFに基づく教授学習活動の作成				PBL		
第12回	FonFに基づく教授学習活動の発表			履修学生による各自が作成した教授学習活動の発表 プレゼンテーションツール等を用い、短時間でわかりやすく発表する				プレゼンテーション・ディスカッション		
第13回	FonFに基づく教授学習活動の分析・評価			履修学生による各自が作成した教授学習活動の分析と評価				PBL・ディスカッション		
第14回	FonFに基づく英語科授業の可能性			学習指導要領とFonFに基づく英語科の授業、FonFに基づく英語科における評価				講義		
第15回	FonFに基づく英語科授業の課題及びまとめ			FonFに基づく英語科授業の課題について履修学生によるディスカッション レポート②「FonFに基づく英語科授業の可能性と課題」				講義・ディスカッション		
評価方法及び評価基準	試験(50%)、教授学習活動の作成(30%)、レポート(20%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教材教科書参考書	「新・英語教育学概論[改訂第2版]」(高梨庸雄 他 著、金星堂) ISBN 978-4-7647-4186-7 「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意点	英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。 本科目を受講するには、前期において「教科教育法ⅡA(英語)」を履修していなければならない。									

科目名	教科教育法 I - 1 (国語)		科目ナンバリング	T-TLJA2-00. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10056		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鈴木 愛理			授業 形態	講義	単独	
	教員免許 (国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>・国語の授業づくりに関わる話題をできるだけ広く取り上げながら、国語教育実践を行っていくための基礎的な知識および思考力の習得をめざす。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	○国語教育の構造や授業づくりに関する基本的な知識について理解することを通して、授業実践について具体的な見通しをもつこと。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	授業づくりについて考える 1			古田尚行『国語の授業の作り方』第1章を手掛かりに考える					ディスカッション	
第3回	授業づくりについて考える 2			古田尚行『国語の授業の作り方』第2章を手掛かりに考える					ディスカッション	
第4回	授業づくりについて考える 3			古田尚行『国語の授業の作り方』第3章を手掛かりに考える					ディスカッション	
第5回	授業づくりについて考える 4			古田尚行『国語の授業の作り方』第4章を手掛かりに考える					ディスカッション	
第6回	授業づくりについて考える 5			古田尚行『国語の授業の作り方』第5章を手掛かりに考える					ディスカッション	
第7回	文学を「読むこと」の授業 1			授業記録の作成と省察①中学校の授業					ディスカッション	
第8回	文学を「読むこと」の授業 2			授業記録の作成と省察②高校の授業					ディスカッション	
第9回	文学を「書くこと」の授業 1			文学創作の学習指導について考える					ディスカッション	
第10回	文学を「書くこと」の授業 2			授業の実際と考察①「俳句の鑑賞」					ディスカッション	
第11回	文学を「書くこと」の授業 3			授業の実際と考察②「俳句の創作」					ディスカッション	
第12回	文学を「書くこと」の授業 4			授業の実際と考察③「短歌の鑑賞」					ディスカッション	
第13回	文学を「書くこと」の授業 5			授業の実際と考察④「短歌の創作」					ディスカッション	
第14回	文学を「書くこと」の授業 6			授業の実際と考察⑤「書の表現と鑑賞」					ディスカッション	
第15回	まとめ			学習指導案の作成						
評価方法及び評価基準	中間レポート20点、授業記録と省察20点(10点×2)、コメントペーパー25点(5点×5)、学習指導案35点									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	教科書の該当ページを予習してきてください。ただ読んでくるのではなく、理解できないところについて参考書等で調べたり、授業で話し合ってみたいことについて考えたりしたうえで授業に参加することを求めます。 準備学習時間の目安：1回あたり1～2時間									
教科書参考書	<p>【教科書】古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018、978-4-909658-01-2</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。ただし、予習をしっかりしたうえでの質問にしてください。									

科目名	教科教育法 I - 2 (国語)		科目ナンバリング	T-TLJA2-01. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10057		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鈴木 愛理			授業 形態	講義	単独	
	教員免許 (国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高校の文学教材を取り上げ、基本的な授業構想の方法について学ぶ。</li> <li>・教材研究をふまえて発問や言語活動を構想・検討することを通して、授業を行うために必要な知識技能および思考力を身につける。</li> </ul> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>○中等教育における国語科（読むこと・文学的文章）の授業づくりについて、基本的な知識を身につけること</p> <p>○文学教材について分析・考察し、それをふまえた授業構想ができること</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業内容の説明、読むこと（文学的文章）の内容と構成					講義	
第2回	教材研究から発問を考える①			江國香織「デューク」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第3回	教材研究から発問を考える②			安東みきえ「星の花が降るころに」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第4回	教材研究から発問を考える③			三浦哲郎「盆土産」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第5回	教材研究から発問を考える④			向田邦子「字のない葉書き」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第6回	教材研究から発問を考える⑤			杉山竜丸「二つの悲しみ」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第7回	教材研究から発問を考える⑥			石垣りん「挨拶」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第8回	教材研究のために読書会を行う①			ヘルマン＝ヘッセ「少年の日の思い出」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第9回	教材研究のために読書会を行う②			太宰治「走れメロス」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第10回	教材研究のために読書会を行う③			魯迅「故郷」を手掛かりに考える					ディスカッション	
第11回	選択した教材の教材研究①			先行研究をもとに教材分析を行う					ディスカッション	
第12回	選択した教材の教材研究②			教材研究に基づいて授業（発問と言語活動）を構想する					ディスカッション	
第13回	教材研究についての検討会①			発表と質疑応答により、教材研究を深める					ディスカッション	
第14回	教材研究についての検討会②			発表と質疑応答により、教材研究を深める					ディスカッション	
第15回	教材研究についての検討会③			発表と質疑応答により、教材研究を深める					ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問 5点×6回=30点</li> <li>・読書会で読んだ教材についての考察（1600字程度、A4・1枚） 5点×3回=15点</li> <li>・自分で選択した教材についての教材観+授業構想（3200字程度、A3・1枚） 30点+25点=55点</li> </ul>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	<p>〔予習〕授業で扱うテキストや教材文を熟読しておくこと。</p> <p>〔復習〕授業で学んだことを整理し、教材研究や発問づくり、授業構想などに活用すること。</p>									
教材教科書参考書	<p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p> <p>【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【教科書】文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【教科書】『新 読む力・考える力を高める 現代文学名作選』明治書院、2012、9784625283260</p> <p>【参考書】石井正巳ほか『国語教科書の定番教材を検討する！』三弥井書店、2021、978-4838233755</p> <p>【参考書】松本修、桃原千英子編著『中学校・高等学校国語科 その問いは、文学の授業をデザインする』明治図書、2020、978-4183620217</p> <p>※適宜紹介しますので、自学自習に励んでください</p>									
留意点	<p>双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。</p> <p>ただし、予習をしっかりとしたうえでの質問にしてください。</p>									

科目名	教科教育法ⅡA(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA3-02. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L10076		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	鈴木 愛理			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(中学国語)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>・中学校・高等学校の国語科教員として授業を担当するために必要な知識と技術について学ぶとともに、国語科授業を構想することを通して、国語科教育の理論と実践のあり方について理解を深める。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>・中等教育における国語教育(主に「読むこと」領域)の理論と方法に関する基本的な知識が身についている。</p> <p>・中等教育における国語科の教材(主に「読むこと」領域)について分析・考察し、それをもとに授業を構想し、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	教材研究としての読書会			「山月記」「山椒魚」で読書会を行う					ディスカッション	
第3回	教材研究①			先行研究をもとに、教材を分析する					ディスカッション	
第4回	教材研究②			先行研究をもとに、教材を分析する					ディスカッション	
第5回	学習指導案作成①			学習指導案を作成する					ディスカッション	
第6回	学習指導案作成②			学習指導案を作成する					ディスカッション	
第7回	学習指導案作成③			学習指導案を作成する					ディスカッション	
第8回	模擬授業および検討会 1			「山月記」(第2時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第9回	模擬授業および検討会 2			「山月記」(第3時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第10回	模擬授業および検討会 3			「山月記」(第4時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第11回	模擬授業および検討会 4			「山椒魚」(第2時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第12回	模擬授業および検討会 5			「山椒魚」(第3時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第13回	模擬授業および検討会 6			「山椒魚」(第4時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第14回	模擬授業および検討会 7			「山椒魚」(第5時)の模擬授業および検討会					模擬授業・討議	
第15回	まとめ			この授業のまとめをする						
評価方法及び評価基準	模擬授業50点、学習指導案50点									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	※教科教育法Ⅰ-1(国語)、教科教育法Ⅰ-2(国語)を履修済みであることが望ましい。未履修の場合は、それらの授業で指定されているテキストを予習として読んでおくこと。									
教材教科書参考書	<p>【参考書】古田尚行『国語の授業の作り方』文学通信、2018、978-4-909658-01-2</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【教科書】文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。ただし、熟考したうえでの質問にしてください。									

科目名	教科教育法ⅡB(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA3-03. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10077		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	今村 かほる、田中 拓郎			授業 形態	講義	複数	
	教員免許(中学国語)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の説明的文章教材の読みを深め、授業を構想し、模擬授業を行うことで学習指導案の改善を行う。</li> <li>・中学校の授業で使用される指導案に基づいた授業の意図と実際、研究協議会による検討の実践。</li> </ul> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の説明的文章教材で学習指導案を作成し、模擬授業を行い、学習指導案を改善することができる。</li> <li>・授業を構成する指導案の意図・工夫・観点などを理解すると共に、それに基づく授業を観察し、評価することができる</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	中学校の授業構想及び学習指導案の作成の仕方			中学校の授業構想の仕方及び学習指導案作成におけるポイントについて理解する						
第3回	新学習指導要領に基づいた高等学校の国語科授業			新学習指導要領をもとに、高等学校に求められる国語科授業について理解する						
第4回	学習指導案の作成 1			班ごとに学習指導案を作成する					グループワーク・ディスカッション	
第5回	学習指導案の作成 2			班ごとに学習指導案を作成する					グループワーク・ディスカッション	
第6回	模擬授業と検討会 1			「ガイアの知性」(第1時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第7回	模擬授業と検討会 2			「ガイアの知性」(第2時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第8回	模擬授業と検討会 3			「ガイアの知性」(第3時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第9回	模擬授業と検討会 4			「ガイアの知性」(第4時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第10回	模擬授業と検討会 5			「ガイアの知性」(第5時)の模擬授業と検討会					模擬授業・討議	
第11回	模擬授業と検討会 6			模擬授業全体を通じた成果と課題についての検討を行う					グループワーク・ディスカッション	
第12回	中学校・指導案の理解と観察			聖愛中学校に出向き、指導案の検討と授業の観察を行う					グループワーク・ディスカッション	
第13回	中学校・研究協議会			授業の研究協議会を聖愛中学校の教諭を含め行う					グループワーク・ディスカッション	
第14回	高校・指導案の理解と観察			聖愛高等学校に出向き、指導案の検討と授業の観察を行う					グループワーク・ディスカッション	
第15回	高校・研究協議会			授業の研究協議会を聖愛高等学校の教諭を含め行う					グループワーク・ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～11回の授業のコメントペーパー(20点)</li> <li>・模擬授業(25点)</li> <li>・学習指導案(25点)</li> <li>・授業見学と授業評価(30点)</li> </ul>									
課題等	適宜指示します。第12回～第15回分はレポート課題を課す。									
事前事後学修	第12回から第15回の前後に、事前準備事後報告の時間を設定する。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】教育出版「伝え合う言葉 中学国語2」978-4-316-20432-1</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	第12回から15回は、夏季休業中に実施する。詳細は掲示する。									

科目名	教育原理		科目ナンバリング	T-TLFU2-00. NKS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10082		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、教職の道を志す者が、最低限理解しておくべき「教育」に関する先人の努力の成果を概観し全体像を把握するためのものである。具体的には、「教育」に関する理論や歴史の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、各自が現代の「教育」についての理解を深めていくことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育の基本的概念を理解し、教育を成り立たせる諸要因との相互関係について説明できる。</p> <p>2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における教育課題を歴史的視点から説明できる。</p> <p>3) 教育に関する様々な思想を理解し、現在の学校教育との関わりについて説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	ガイダンス			・授業の目的・概要・方法を理解し、教育とは何かについて考察する。				グループワーク ディスカッション		
第2回	発達という概念			・発達という概念を理解し、発達をめぐる問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第3回	教育目的という概念			・教育目的という概念を理解し、教育目的のあり方について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第4回	古代ギリシアの教育			・古代ギリシアの教育とソクラテス・プラトンの思想を理解し、現代の教育問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第5回	宗教改革と教育			・宗教改革と教育の関係を理解し、宗教と教育の関係について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第6回	コメニウスの教育理論			・コメニウスの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第7回	ルソーの教育理論			・ルソーの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第8回	フランス革命期の公教育構想			・コンドルセの公教育論を理解し、現代の公教育をめぐる問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第9回	デューイの教育理論			・デューイの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第10回	マカレンコの教育理論			・マカレンコの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第11回	日本における近代学校教育制度の成立			・日本における近代学校教育制度の成立過程を理解し、現代の教育問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第12回	教育勅語体制の成立			・近代日本の教育勅語体制について理解し、現代の教育問題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第13回	戦後日本の教育改革			・戦後日本の教育改革について理解し、現在の教育とのつながりについて考察する。				グループワーク ディスカッション		
第14回	教育の理念と現実			・教育の機会均等の理念と現実に存在する課題について考察する。				グループワーク ディスカッション		
第15回	まとめ			・授業全体の総括				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み（グループワーク、振り返り） 50%</li> <li>・まとめレポート 50%</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。</li> <li>・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。</li> <li>・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 湯川次義他『最新 よくわかる教育の基礎』学文社、2019年。(ISBN: 978-4762028700)</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	教育史		科目ナンバリング	T-TLFU2-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10083		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	選択								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 弘前市教育委員会『弘前市教育史』を輪読しながら疑問点を議論することを通して、東北屈指の学園都市・弘前がどのように形成されてきたのかを多角的な視点から理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 本学が位置する学園都市弘前の成り立ちについて説明できる。 2) 広い視野から地域の歴史を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・ 本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明					ディスカッション	
第2回	藩政時代の教育 (1)			・ 城下町弘前とその特質					ディスカッション	
第3回	藩政時代の教育 (2)			・ 藩士の教育					ディスカッション	
第4回	藩政時代の教育 (3)			・ 庶民の教育					ディスカッション	
第5回	藩政時代の教育 (4)			・ 弘前周辺における庶民教育					ディスカッション	
第6回	藩政時代の教育 (5)			・ 藩政時代から明治へ					ディスカッション	
第7回	明治前期の教育 (1)			・ 明治維新と地方制度					ディスカッション	
第8回	明治前期の教育 (2)			・ 社会・経済的変動と士族層					ディスカッション	
第9回	明治前期の教育 (3)			・ 弘前の産業と士族層					ディスカッション	
第10回	明治前期の教育 (4)			・ 明治十三年の大火					ディスカッション	
第11回	明治前期の教育 (5)			・ 明治十四年の天皇御巡幸					ディスカッション	
第12回	東奥義塾の創設とその活動 (1)			・ 義塾創設以前					ディスカッション	
第13回	東奥義塾の創設とその活動 (2)			・ 東奥義塾の創設					ディスカッション	
第14回	東奥義塾の創設とその活動 (3)			・ 義塾の学風と財政					ディスカッション	
第15回	東奥義塾の創設とその活動 (4)			・ 共同会と言論活動					ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・ 平常点：100% テキスト音読の出来・ディスカッションへの参加度を評価する。</p>									
課題等	・ テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。									
事前事後学修	<p>・ 事前学修：テキストを音読できるよう分からない言葉を調べておく。 ・ 事後学修：テキストを読み進めるなかで浮かんだ疑問について調べる。</p>									
教材教科書参考書	・ 教科書：弘前市教育委員会『弘前市教育史 上巻』（1975年、ISBN：なし）から必要部分をコピーして配布する。									
留意点	特になし									

科目名	教師論		科目ナンバリング	T-TLFU2-02. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10051		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、当該回のテーマについて担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、教職という職業について様々な角度から考察する機会を受講者に提供するものである。教職について深く理解した上で、自らの職業として選択するかどうか受講者が判断できるようになることを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公教育の意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。</li> <li>2) 教職に求められる社会的役割について理解し、必要な資質能力について説明できる。</li> <li>3) 教職の全体像を理解し、研修の意義と服務上・身分上の義務について説明できる。</li> <li>4) 教職の諸課題を理解し、組織的に解決に取り組む必要性について説明できる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・ 本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明					グループワーク ディスカッション	
第2回	教師親の変遷			・ 教師親の歴史の変遷を理解し、理想の教師像について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第3回	教員養成の歴史			・ 教員養成の歴史を理解し、教員養成のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第4回	教員の職務の実際(1)			・ 学級指導の実例をもとに、担任業務の意義について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第5回	教員の職務の実際(2)			・ 生徒指導の実例をもとに、生徒指導の意義について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第6回	教員に求められる資質と能力			・ 教育活動の事例をもとに、教員に求められる資質と能力について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第7回	学校の組織と運営			・ 学校の組織と運営について理解し、「チーム学校」のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第8回	現代社会と教職(1)			・ 学校教育における国際化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第9回	現代社会と教職(2)			・ 学校教育における情報化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第10回	研修の意義			・ 研修制度について理解し、研修の意義について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第11回	教職をめぐる諸問題			・ 教職についてどのようなことが課題とされているか理解し、今後の教職のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第12回	教育改革の動き			・ 教育改革の現状について理解し、教育改革のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第13回	教員の任用と服務			・ 教員の任用と服務についての規定を理解し、教員の服務のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第14回	採用と選考			・ 教員採用と選考の流れを理解し、教員採用のあり方について考察する。					グループワーク ディスカッション	
第15回	まとめ			・ 授業全体の総括					グループワーク ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への取り組み(グループワーク、振り返り) 50%</li> <li>・ まとめレポート 50%</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。</li> <li>・ 振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。</li> <li>・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書は指定しない。毎回授業レジュメを配布する。</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	教育制度論		科目ナンバリング	T-TLFU2-03. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10086		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 「教育」と「法」という、一見馴染みにくそうな関係にあって、「法」はどのように「教育」に関わり、どのように「教育」という営為を捉え、支えているかを考える。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達 目標	日本国憲法をはじめ、重要な教育法規に関して、その概要をつかみ、その要点を理解することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	教育に関する法の概観			教育関係の法の体系を学ぶ					グループ討論	
第2回	日本国憲法①			日本国憲法26条「教育を受ける権利」「教育を受けさせる義務」					グループ討論	
第3回	日本国憲法②			日本国憲法23条「学問の自由」ほか					グループ討論	
第4回	子どもの権利条約			子どもの権利条約2条1項、3条1項、7条1項、13条ほか					グループ討論	
第5回	教育機関に関する規定①			学校の設置					グループ討論	
第6回	教育機関に関する規定②			学校の目的と編成					グループ討論	
第7回	教育機関に関する規定③			学校評議員制度と学校運営協議会					グループ討論	
第8回	教育課程に関する規定①			教育課程と学習指導要領、教科書					全体発表	
第9回	教育課程に関する規定②			出欠席の管理、学年、学期					グループ討論	
第10回	児童・生徒等の就学に関する規定①			就学の権利と義務					グループ討論	
第11回	児童・生徒等の就学に関する規定②			生徒指導					グループ討論	
第12回	児童・生徒等の就学に関する規定③			学校における保健と安全					グループ討論	
第13回	教育職員に関する規定			免許、服務、分限、懲戒等					グループ討論	
第14回	教育行政・財政に関する規定			教育行政の組織、教育財政の仕組み					グループ討論	
第15回	総括			まとめと振り返り					全体発表	
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみを評価の対象とする。 試験の形式及び内容は講義内容に即した一問一答式の客観テスト。									
課題 等	特になし									
事前 事後 学修	特に事後学修に関して、ノートの整理や支持された文献の参照などを行うこと									
教材 教科書 参考書	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップVer. 3.0』ISBN:978-4812215098 昭和堂									
留意 点	教育六法等を常に教室に持参すること。 毎時間、グループ討論や全体発表の時間を設けるので、積極的・能動的に取り組むこと。									

科目名	教育心理学		科目ナンバリング	T-TLFU2-04. NKN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10052		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	前中 香			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】          幼児、児童及び生徒の心身の発達等に関する理解を図るため、教育における発達(幼児の心理を含む)を中心とした心理学的諸過程や教育についての基本的理解を得させ、次学年以降の教育過程の心理学的な理解の導入として位置づける。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達 目標	幼児教育及び学校教育全般の基礎的概念を学び、心理学的観点から人間教育を考えることができるようになること									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	人間関係について			人間関係の中でのヒトの成長						
第2回	発達とは何か			発達心理学誕生の経緯と生涯発達心理学の立場の意義						
第3回	発達に関する代表的理論			遺伝－環境論争の展開とその意義						
第4回	発達の相互作用説			発達の臨界期・敏感期と、発達課題						
第5回	教育と発達			ヴィゴツキーの発達の最近接領域、問題行動を考える						
第6回	言語の発達			音声と語彙の発達、話ことばの発達、読み書きの発達について						
第7回	認知・思考の発達			ピアジェの発達理論						
第8回	社会性の発達(幼児期)			幼児期における社会的な心の発達、心の理論の獲得、コミュニケーションの発達について						
第9回	社会性の発達(児童期以降)			児童期から青年期の社会性の発達、道徳性の発達について						
第10回	学習理論とその実践			学習や記憶に関する諸理論とその活用について						
第11回	動機づけと学習意欲			動機づけの諸理論と学習意欲の向上について						
第12回	学習意欲の喪失			学習意欲の喪失の原因と回復について						
第13回	教育評価の方法と留意点			教育評価の目的・方法、教育評価を歪める要因、ピグマリオン効果						
第14回	学級集団と集団規範			集団のとらえ方、集団規範とその測定、学級集団の特徴と集団規範						
第15回	児童生徒の個別性に応じた指導・支援			児童生徒理解とその留意点、児童生徒の指導・支援のための基本的考え方						
評価 方法 及び 評価 基準	試験で評価する(100%)。									
課題 等	課題の提出を求められた時には、提出期限を守ること									
事前 事後 学習	特に事後学習において、配布された資料は整理と自己管理を行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書なし。資料を配布する。 【参考書】吉川成司、関田一彦、鈎治雄編著『はじめて学ぶ教育心理学』、ミネルヴァ書房、2010年 鎌原雅彦、竹網誠一郎著『やさしい教育心理学 第4版』有斐閣アルマ、1999年									
留意 点	特になし。									

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援		科目ナンバリング	T-TLFU2-05. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10087		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>通常の学級にも発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等を有する、あるいは障害はないものの特別な教育的ニーズを必要とする子どもたちがいる。本講義では、これらの子どもたちが、学校内外において実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、彼らの学習上・生活上の困難を理解し、その教育的ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学ぶを旨とします。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害や特別のニーズを必要とする児童・生徒に関わる近年の制度上の動向を理解する。</li> <li>2. 諸障害ならびに特別なニーズをもつ児童・生徒の特徴と対応の仕方を理解する。</li> <li>3. 学校組織の中での適切な理解・支援と対応を理解する。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ノーマライゼーションの概念			Normalizationの理念とインクルーシブ教育システム誕生の歴史的経緯						
第2回	インクルーシブ教育			インクルーシブ教育システム構築に至る日本の教育制度の変遷						
第3回	特別支援教育			特殊教育と特別支援教育の相違点及び特別支援教育に関わる制度改正のポイント						
第4回	特別支援教育における支援とは			特別支援教育の場と教育・支援内容:通級による支援や自立活動等を含む						
第5回	視覚障害・聴覚障害			視覚障害、聴覚障害の生活・学習の困難と教育内容						
第6回	知的障害・肢体不自由・病弱			知的障害、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の特性と生活・学習上の困難と教育内容						
第7回	LD (学習障害)			LDの特性と支援						
第8回	ADHD (注意欠如・多動症)			ADHDの特性と支援						
第9回	自閉スペクトラム症			ASDの特性と支援						
第10回	貧困や母国語が異なる子どもたち			障害はないものの特別な教育的ニーズを有する子どもの特性と支援						
第11回	特別支援教育の校内体制			特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の構築						
第12回	個別の指導計画者の活用			個別の指導計画等の作成の目的と活用方法						
第13回	保護者への対応			保護者との協力関係を構築するために必要な情報及び相談の基本						
第14回	連続性のある支援			大学生の合理的配慮事例からみる早期からの連続性のある支援の意義						
第15回	校内外との連携			教員の専門性と校内外の協働						
評価方法及び評価基準	<p>期末試験、または期末レポートおよび授業内提出物（小レポート等）および授業内での活動をもとに評価を行います。期末試験（/レポート）を5割、授業内提出物3割、授業内活動を2割の割合とします。</p>									
課題等	<p>授業内活動で、小レポートを課します。また、グループディスカッションもあります。</p>									
事前事後学修	<p>講義資料へ事前および事後に目を通してください。</p>									
教材教科書参考書	<p>特にありません。講義資料等については印刷物あるいはネット等でアクセスできるようにします。</p>									
留意点	<p>特になし</p>									

科目名	教育課程とカリキュラム・マネジメント		科目ナンバリング	T-TLFU2-06. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10080		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 本授業は、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、各自が教育課程についての理解を深めていくことを目指す。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育課程・カリキュラムの概念と意義について説明できる。 2) 教育課程編成の基本原理にもとづく編成方法について説明できる。 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握しマネジメントすることの意義について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・ 本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明					グループワーク ディスカッション	
第2回	教育課程とカリキュラム			・ 教科書第1章					グループワーク ディスカッション	
第3回	カリキュラムの類型論			・ 教科書第2章					グループワーク ディスカッション	
第4回	教育課程と学習指導要領			・ 教科書第3章					グループワーク ディスカッション	
第5回	教育課程行政の基礎知識			・ 教科書第4章					グループワーク ディスカッション	
第6回	教科書と学習指導要領			・ 教科書第5章					グループワーク ディスカッション	
第7回	総合的な学習の時間の成果と課題			・ 教科書第6章					グループワーク ディスカッション	
第8回	小学校外国語教育の展望			・ 教科書第7章					グループワーク ディスカッション	
第9回	カリキュラム・マネジメントの理解			・ 教科書第8章					グループワーク ディスカッション	
第10回	高等学校の多様な教育課程			・ 教科書第9章					グループワーク ディスカッション	
第11回	学習指導要領の変遷 (1)			・ 戦後復興からゆとり路線まで (教科書第10章)					グループワーク ディスカッション	
第12回	学習指導要領の変遷 (2)			・ グローバル化と学力観の転換 (教科書第11章)					グループワーク ディスカッション	
第13回	教育課程をめぐる今日の動向 (1)			・ 教育課程の研究校制度 (教科書第12章)					グループワーク ディスカッション	
第14回	教育課程をめぐる今日の動向 (2)			・ 多文化共生 (教科書第13章)					グループワーク ディスカッション	
第15回	まとめ			・ 授業全体の総括					グループワーク ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・ 授業への取り組み (グループワーク、振り返り) 50% ・ まとめレポート 50%</p>									
課題等	<p>・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・ 振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</p>									
事前事後学修	<p>・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。</p>									
教材教科書参考書	<p>・ 教科書 吉田武男 (監修) 根津朋実 (編著) 『教育課程 (MINERVAはじめて学ぶ教職 10)』 ミネルヴァ書房、2019年。 (ISBN: 978-4623084869)</p>									
留意点	特になし									

科目名	道徳教育の理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP2-00. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10088		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(中免)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>学校における道徳教育の歴史を理解するとともに、指導案の作成や模擬授業を通して各自の道徳教育観を育むことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 学校における道徳教育の目標や内容を理解し実践的な指導力を身につける。</p> <p>2) 道徳科の特性を踏まえた指導計画を立案し実践することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明				グループワーク ディスカッション		
第2回	道徳教育と宗教			・公教育における宗教				グループワーク ディスカッション		
第3回	道徳教育の歴史 (1)			・教育勅語と修身教育				グループワーク ディスカッション		
第4回	道徳教育の歴史 (2)			・戦後教育改革と「道徳の時間」特設				グループワーク ディスカッション		
第5回	道徳教育の歴史 (3)			・道徳の教科化				グループワーク ディスカッション		
第6回	「道徳」授業の方法			・問題解決型の授業の検討 ・モラルジレンマによる道徳授業の紹介				グループワーク ディスカッション		
第7回	特別の教科道徳 (1)			・道徳教育の目標 道徳科の内容				グループワーク ディスカッション		
第8回	特別の教科道徳 (2)			・道徳科の指導 道徳科の評価				グループワーク ディスカッション		
第9回	授業案の構想			・指導案の相互検討				グループワーク ディスカッション		
第10回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第11回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第12回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第13回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第14回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第15回	まとめ			・全体の総括				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み（グループワーク、振り返り） 50%</li> <li>・模擬授業（指導案含む） 50%</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。</li> <li>・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。</li> <li>・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<p>教科書・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』2018年。 (ISBN: 978-4316300849)</p>									
留意点	特になし									

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間指導法		科目ナンバリング	T-TLSP2-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10089		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>学校の学級活動、生徒会活動、学校行事などが特別活動である。これらの活動が集団の中で、個人の「自律」と協働という2つの能力を向上させていくように、教員・学校は配慮していく。特別活動が集団と個人を比較すると、どちらかと言えば、集団に重心が置かれる。他方で、総合的な学習は、どちらかと言えば、個人の能力をより伸ばそうとするものである。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>個人と個人、個人と集団、集団と集団、小さな集団と大きな集団など様々な協働作業の中で、調整と対立が生じる。その中で、個人や集団はどのように考え行動すべきか。生徒個人・生徒集団・教員・教員集団の立場で考えていく。このように、特別活動は、個人は常に集団との関わりを意識せざるを得ない。個人の能力は重要だが、個人が集団との関わりの中で経験的に学んでいくことが重視される。他方で、総合的な学習の主たる理念は、各教科の専門領域を超えて2教科以上の専門領域を横断的に学習する。個人が各教科の専門領域を超える発想で学習・探求していくことが求められるのである。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	本講義・展開方法・発表・レポートについて			発表は義務だが、評価はしない。発表内容からレポートの作成。						
第2回	特別活動と教育課程			学習指導要領から特別活動の定義と目標を考察。						
第3回	特別活動の基本的性格			特別活動の基本的性格と教育的意義についての考察。						
第4回	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連			特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連で、最も重要な点は、目に見える活動を通じて、点数化や評価がしにくい部分の能力向上を目指していることへの理解。						
第5回	学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、学校行事とは何か			学級活動、生徒会活動、学校行事のメリット・デメリットを考察。						
第6回	学級活動・生徒会活動・学校行事の関係とその意義			「目に見える」・「目に見えない」視点から、3つの活動とその共通点を考察。						
第7回	総合的な学習とは何か			総合的な学習と各教科学習の違いとその意義。						
第8回	総合学習の事例を学ぶ			総合的な学習の事例から横断的な学習のメリットを考察。						
第9回	総合的な学習と特別活動の関係			総合的な学習と特別活動の違いと共通点を考察。						
第10回	学生による発表（1）			指定された字数で、自らの経験を踏まえて自らの特別活動又は総合的な学習の授業計画を作成して発表。						
第11回	学生による発表（2）			（1）の続き：学生の発表に、これを聴講した学生が疑問・意見をぶつける。						
第12回	学生による発表（3）			疑問の工夫と各学生への助言。						
第13回	学生による発表（4）			意見の工夫と各学生への助言。						
第14回	学生による発表（5）			発表のスピードの工夫と各学生への助言。						
第15回	学生による発表（6）			発表時の態度の工夫と各学生への助言。						
評価方法及び評価基準	3つの特別活動又は総合的な学習から一つを選んでレポート（100%）を提出。									
課題等	講義は、小学校・中学校、高校、そしてこれまでの大学生としての経験等を思い出しながら、聞いてください。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前日は、教育に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでみてください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。</li> <li>・適宜、参考書等を講義において示します。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、参考書等を講義において示します。</li> </ul>									
留意点	第1回目の講義に欠席する学生は事前に西東まで連絡をすること。									

科目名	教育の方法と技術		科目ナンバリング	T-TLSP2-02. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10090		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐藤 萬昭 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>情報通信技術の急速な発展に伴い、学校においてデジタル教科書、生徒1人に1台のタブレット端末、電子黒板、校内LANなどの導入整備が行われ、その利活用による教育のICT（情報通信技術）化が進められている。</p> <p>本科目では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論や授業における指導技術を概説するとともに、ICTを教育現場における児童生徒への指導にどのように活用するのかについて概説する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>本科目の到達目標は、次の5つである。</p> <p>(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。</p> <p>(2) 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解できる。</p> <p>(3) ICTを活用した学習指導や校務の実際とICT環境の整備について理解できる。</p> <p>(4) 教育データの活用や教育情報セキュリティの重要性について理解できる。</p> <p>(5) 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付ける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の概要（科目の意義・目標、授業の進め方、評価の方法）</li> <li>・現代社会におけるICTの役割</li> </ul>						
第2回	教育の現代化と教授理論			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授法の変遷</li> <li>・問題解決学習、プログラム学習及び発見学習の概要</li> </ul>						
第3回	情報や知識を提示・伝達する方法と技術			<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の概要と留意点</li> <li>・教科用図書の使い方</li> <li>・板書・レジュメ・参考資料の活用方法</li> </ul>						
第4回	学習意欲を引き出す工夫と授業技術			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問の種類と意義</li> <li>・調べ学習と話し合い学習の概要と留意点</li> </ul>						
第5回	学習活動を評価する方法と技術			<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価の意義と目的</li> <li>・客観的評価と主観的評価の概要と留意点</li> </ul>						
第6回	教育現場におけるICTの役割と導入			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場におけるICT活用の意義</li> <li>・学校におけるICT環境の整備</li> <li>・外部との連携のあり方</li> </ul>						
第7回	デジタルコンテンツの利用			<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツの概要</li> <li>・デジタルメディアの特性と活用方法</li> </ul>						
第8回	教科指導におけるICT活用（1）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用の方法や場面</li> <li>・電子黒板の機能と活用方法</li> </ul>						
第9回	教科指導におけるICT活用（2）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書導入の背景</li> <li>・デジタル教科書の効果と活用方法</li> </ul>						
第10回	特別支援教育におけるICTの活用			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用のメリットとデメリット</li> <li>・ICTの活用推進における留意点</li> </ul>						
第11回	遠隔教育におけるICT活用			<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業の方法（同時配信授業、オンデマンド授業など）</li> <li>・遠隔授業の方法（遠隔交流授業、遠隔合同授業など）</li> <li>・遠隔教育の接続形態の概要</li> </ul>						
第12回	教育ICTの活用事例			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校種における教育ICTの活用事例</li> <li>・中学校英語教育における電子黒板とデジタル教科書の活用事例</li> </ul>						
第13回	情報モラル教育			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育の意義と進め方</li> </ul>						
第14回	校務の情報化とデータの活用			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの校務への活用</li> <li>・学習指導や学習評価における教育データの活用</li> <li>・教育情報セキュリティの重要性</li> </ul>						
第15回	まとめ			本科目の内容を振り返る						
評価方法及び評価基準	<p>平常点評価（40%）及び試験の結果（60%）を総合的に勘案して評価する。評価に際しては、主体的に講義に参加しているか、講義で学んだ知識を確実に自らのものとする中で論理的かつ明晰な文章で記述できるか、の2点を重点的に評価する。</p>									
課題等	オンライン授業アプリにより適宜指示する。レポート課題はオンライン授業アプリにより提出する。									
事前事後学修	適宜授業中に指示するが、復習を中心に学習を進めること。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布及びオンライン授業アプリで提示する。</p> <p>【参考書】 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則篇』978-4827815801</p>									
留意点	質問等はオンライン授業アプリによる双方向的な形態を採用します。日頃から教育のICT化に関わる様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持つように努めてほしい。									

科目名	教育方法の理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP3-13. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10091		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志				授業 形態	演習	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本演習は、次年度に教育実習を控えている3年生を対象に、教育方法の理論を理解した上で情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とするものである。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育方法の基礎的理論を理解している。</p> <p>2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている。</p> <p>3) 情報機器を効果的に活用した授業を行うことができる。</p>									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	ガイダンス		・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						グループワーク ディスカッション	
第2回	教育方法の理論 (1)		・教育方法論の歴史的展開 (教科書第1章)						グループワーク ディスカッション	
第3回	教育方法の理論 (2)		・教授・学習の諸理論 (教科書第2章)						グループワーク ディスカッション	
第4回	情報機器の活用 (1)		・ICT活用～歴史と理論～ (教科書第11章)						グループワーク ディスカッション	
第5回	情報機器の活用 (2)		・ICT活用～実践と事例～ (教科書第12章)						グループワーク ディスカッション	
第6回	情報機器の活用 (3)		・ICT活用～I人1台端末時代に向けて～ (教科書第13章)						グループワーク ディスカッション	
第7回	授業案の構想		・指導案の相互検討						グループワーク ディスカッション	
第8回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						模擬授業 ディスカッション	
第9回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						模擬授業 ディスカッション	
第10回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						模擬授業 ディスカッション	
第11回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						模擬授業 ディスカッション	
第12回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						模擬授業 ディスカッション	
第13回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						模擬授業 ディスカッション	
第14回	模擬授業		・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						模擬授業 ディスカッション	
第15回	まとめ		・全体の総括						グループワーク ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み (グループワーク、振り返り) 50%</li> <li>・模擬授業 (指導案含む) 50%</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。</li> <li>・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：教育方法という観点から今まで受けてきた授業を振り返っておく。</li> <li>・事後学修：授業を通じて自分に足りないと感じた知識を積極的に身につける。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 武田明典・村瀬公胤編著『教師と学生が知っておくべき教育方法論・ICT活用』北樹出版、2022年。(ISBN：978-4779306761)</li> </ul>									
留意点	<p>この授業は、必ず教育実習に行く直前の年度に受講すること。この授業の結果により、次年度の教育実習の可否を判断するので、心して受講すること。</p>									

科目名	アクティブ・ラーニングの理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP2-04. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10081		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>講義とディスカッションを通してアクティブ・ラーニングの理論を身につけた上で、模擬授業を行う。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) アクティブ・ラーニングとは何かについて説明できる。</p> <p>2) アクティブ・ラーニングの観点にもとづく授業を実践できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明				グループワーク ディスカッション		
第2回	アクティブ・ラーニングとは何か (1)			・授業改革からアクティブ・ラーニングへ (教科書第1章)				グループワーク ディスカッション		
第3回	アクティブ・ラーニングとは何か (2)			・アクティブ・ラーニングへの移行 (教科書第2章)				グループワーク ディスカッション		
第4回	事例検討 (1)			・事例1 事例2 (教科書第3章)				グループワーク ディスカッション		
第5回	事例検討 (2)			・事例3 事例4 (教科書第3章)				グループワーク ディスカッション		
第6回	アクティブ・ラーニングの実践 (1)			・共有財産としての参加型アクティビティ (教科書第4章)				グループワーク ディスカッション		
第7回	アクティブ・ラーニングの実践 (2)			・アクティブラーニングが定着する条件 (教科書第5章)				グループワーク ディスカッション		
第8回	授業案の構想			・指導案の相互検討				グループワーク ディスカッション		
第9回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第10回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第11回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第12回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第13回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第14回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント				模擬授業 ディスカッション		
第15回	まとめ			・授業全体の総括				グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み (グループワーク、振り返り) 50%</li> <li>・模擬授業 (指導案含む) 50%</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。</li> <li>・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：アクティブ・ラーニングという観点から今まで受けてきた授業を振り返っておく。</li> <li>・事後学修：授業を通じて自分に足りないと感じた知識を積極的に身につける。</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 渡部淳『アクティブ・ラーニングとは何か』岩波新書、2020年。(ISBN:978-4004318231)</li> </ul>									
留意点	特になし									

科目名	生徒指導論・進路指導論 (キャリア教育の理論及び方法を含む)		科目ナンバリング	T-TLSP2-05. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	資格関係科目		科目コード	L10092		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>生徒指導は、服装・頭髪指導に見られるように、学校現場では長く合理的管理だと見なされてきた。その中の進路指導も同様に偏差値・成績で同様の指導が行われてきた。だが、今日のキャリア教育を含む生徒指導は、目に見える基準のみで生徒に接することは、生徒の数値化できない、目に見えにくい能力に焦点をあてない管理型の教員となり、生徒も同様の思考になってしまうかもしれない。人間の社会から管理的側面を完全に排除することはできないが、同時に次世代が自らを育む側面を重視するというキャリア教育を含む生徒指導にしていけば、より良い循環となろう。どのような学校であれ、まずは時間をかけて生徒の自律的側面を重視する環境を形成していくことです。一方では、他律的な指導と、他方では、生徒の自律的な側面を育み、生徒自身が自らの「マニュアル」を心の中に徐々に作成していく。そうした能力をこれからの時代の教員は磨いていく必要がある。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2)に関連し、カリキュラムポリシーの2-2)に関連している。</p>									
到達目標	<p>生徒指導は、教員が生徒に指導・助言を行うことです。だが、教員ができるかぎり、あらゆる生徒に対応できる能力を磨いていこうと思えば、教員が生徒を通じて、生徒から学ぶことを忘れないことです。もちろん、この実践を続けることは、極めて難しい。だが、これにより、キャリア教育を含む生徒指導に創造性・発展性の可能性が見えてくる。現時点で、学校現場に出ていない受講者には、せめてこのことを理屈だけでも理解してもらいたい。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等の説明			8年間の高校現場での経験をもとに、政治学・行政学・教育学の視点で概説する。						
第2回	生徒個人としての課題とあいさつ (1) 将来と生き方			夢あるいは具体的目標を持ち、このことを強く信じて生活していくことが、自分を律し、そして能力を高めていくことを概説する。その基本があいさつであることを伝える。				進路キャリア1-1・2・3		
第3回	(2) 進路と職業 (キャリア教育)			前回の目標はできれば、生徒が自分の将来の職業と結びつけるように、担任が少しずつ関連する情報を生徒に提供していく。このことの繰り返し極めて重要であることを理解する。バブル経済崩壊後、我が国の進学・職業観が変遷中である。こうした中、キャリア教育により、「新たな」進学・職業観を学ぶ必要がある。その背景について学ぶ。				進路・キャリア2-1・2		
第4回	(3) キャリア教育と学習			いわゆる学習は極めて重要だが、部活動や趣味、友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要。なぜなら、その努力する習慣は学習のみならず、あらゆることに応用可能だからです。このことが現段階での職業意識、将来の職業を決めていく過程にも極めて重要であることを伝える (キャリア教育)。				進路・キャリア3-1・2		
第5回	個人と集団の課題としての生活 (1) あいさつと集団			あいさつは、意識せずともできるようになることが必要である。細かな点は別にして、このレベルに達していれば、あらゆることに可能性を導きだせる。				生徒指導1-1・2		
第6回	(2) いじめのおさる背景			いじめがおさる背景を時代の違いで分析する。				生徒指導3-1		
第7回	(3) いじめの社会的分析			いじめ問題は当事者同士のみならず、第三者が関係し強められることが多い。				生徒指導3-2		
第8回	(4) 西東の経験したいじめへの対応			高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題に対応責任者として関わった。その時の過程と配慮すべきことの伝達。				生徒指導3-1・2・3		
第9回	授業の初めに、いじめ問題のワークショップを30分間行い、記録を取る。 (5) 掃除と生活態度			いじめ問題をはじめとした生徒指導には、まず教員と学級の生徒たちとの関係づくりから行うこと。そのための最も重要な手段が校内の掃除である。				生徒指導1-3		
第10回	(6) 性の問題と人権			生徒の性の問題や疑問は、一般に外部情報や友人からの情報に影響を受ける。こうした情報には間違いや偏見のあるものが珍しくない。そうした情報に歪められない基本的な考え方を伝える。				生徒指導1-4, 2-3		
第11回	教員と教員相互の課題としての指導体制 (1) ホームルームと担任			学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルーム活動によって、学級は形成されていく。その際の担任の基本的考え方や立場について理解。				生徒指導2-1・2		
第12回	(2) 担任と学年会議			学年は担任・副担任にとって学級を形成していく重要な補助組織である。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の調整をしていく。				生徒指導2-2・3		
第13回	(3) 人権への配慮と生徒指導部			生徒指導部の活動は学校の秩序形成に寄与する活動である。その際対象となる生徒に人権配慮を常に考えておくことが必要。				生徒指導3-2・3		
第14回	プロフェッショナルとしての教員の資質・どのようにすればこの資質を伸ばせるかについてワークショップを行い、記録を取る。			プロフェッショナルとしての教員の資質の分析。重要な資質は目に見える資質が目に見えにくい資質によって向上していくことを理解。				生徒指導1-4, 3-2・3		
第15回	まとめと試験			全体的まとめと試験				生徒指導3-2・3		
評価方法及び評価基準	ワークショップ (第9回と第14回の2回分) を行い、記録を取る (20%)。試験 (80%) 文章の構成と論理性を中心に評価									
課題等	・生徒指導における教員は、感情よりも論理が強い。一部の、あるいは時に多くの生徒は、論理よりも感情が強い。このことを全体の講義を通して考えてほしい。									
事前事後学修	・講義前日は、教育に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	・適宜、参考書等を講義において示します。									
留意点	・教科書はありません。 ・第1回目の講義に欠席する学生は、事前に連絡をすること。									

科目名	学校カウンセリング (教育相談を含む)		科目ナンバリング	T-TLSP2-06. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	前中 香				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  生徒の心の悩みを聴いて、よりよい対処方法を生徒や保護者とともに考えていくための助言・援助活動である学校カウンセリング(教育相談)の基本的な考え方や、基本的な相談技法の基礎を学ぶ。  講義だけでなく、話し合い活動や演習を取り入れ、開発的教育相談を体験する授業とする。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 学校教育におけるカウンセリング(教育相談)の意義と機能について説明できる。  2 事例を通して、学校生活で生徒たちに起こりうる様々な問題についての理解を深め、対応策について意見を述べる。  3 基本的なカウンセリング(教育相談)の進め方と技法を修得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 学校における教育相談の意義と課題		講義の概要と到達目標、スケジュール等を説明する。 教育相談の特徴、種類の理解を通して教育相談の意義を確認する。 「チーム学校」を進める教員に求められる資質能力を理解する。							
第2回	カウンセリングの理論と基礎知識		ロジャーズやフロイトなどの代表的なカウンセリング理論と精神分析、認知行動療法などの心理療法理論の概要を学ぶ。							
第3回	学校におけるカウンセリング		学校におけるカウンセリングの特徴や方法などの概要をとらえる。 カウンセラーの基本的態度であるカウンセリング・マインドについて理解する。							
第4回	カウンセリングの基本技法		生徒の話を引き出す基本的スキル(言語的および非言語的スキル)を学び、ロールプレイによる「面接の基本的スキル」を体験する。							
第5回	教育相談におけるアセスメント		アセスメントのための情報収集の基本と、心理教育的アセスメントや生態学的アセスメントなどアセスメントの基本を理解する。							
第6回	思春期・青年期の発達課題と教育相談		思春期・青年期の特徴と発達課題を理解するとともに、社会環境や生活環境の急激な変化のなかで心的なバランスを崩しやすい生徒への支援を考える。							
第7回	学級担任が行う教育相談		学級は人間関係を育む場でもある。生徒にとって居心地の良い学級環境と好ましい人間関係と気づくために学級担任が行う予防・開発的教育活動を考える。							
第8回	予防・開発的教育相談のための グループ・アプローチ		予防・開発的教育相談として学校で多く用いられているグループ・アプローチの種類とそれぞれの特徴について理解する。							
第9回			アサーショントレーニング、構成的グループエンカウンターを体験する。						グループワーク	
第10回	学校全体で進める教育相談		効果的な教育相談を進めるための校内教育相談体制の確立と教職員間の校内連携のポイントを理解する。							
第11回	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割		チーム支援を進めるうえで大きな働きが期待されているスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの職務と役割を理解する。							
第12回	保護者との連携と支援		生徒支援における最良の協力・支援者である保護者との連携の進め方を理解する。また、悩みを抱える保護者支援のポイントを学ぶ。							
第13回	「いじめ」の問題を考える		「いじめ」の定義といじめの諸相を理解し、いじめの被害者・加害者・周辺の生徒の心理特徴と支援の在り方を考える。						グループディスカッション	
第14回	「不登校」の問題を考える		「不登校」の原因と心理的特徴を理解し、不登校予防の取り組みと不登校生徒への支援の在り方を考える。						グループディスカッション	
第15回	関係者・関係機関との連携		生徒や学校とかかわりの深い関係者や、外部関係機関との連携・協力関係の構築について学ぶ。							
評価方法及び評価基準	<p>○演習・協議への参加30%、最終レポート70%の割合で評価する。  ・演習・協議への参加：基本的な相談面接の技法や演習及び事例検討等への参加状況(発言・態度など)により評価する。  ・最終レポートは1,000字程度。</p>									
課題等	課題等や最終レポートは提出期限を守ること。									
事前事後学習	特に事後学習において、配布された資料は整理と自己管理を行うこと。									
教材教科書参考書	<p>教科書：会沢 信彦(2019)『教育相談の理論と方法』北樹出版 ISBN978-4779305986  そのほか、授業時に資料を配布する。  参考書：文部科学省(2010)デジタル版「生徒指導要領改訂版」 ※参考図書は文部科学省HPに掲載されている。</p>									
留意点	日頃から児童生徒に関する様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持って授業に臨んでほしい。									

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)		科目ナンバリング	T-TLPR4-00. NK	単位数 時間	5単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	L10070		150時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	実習	単独	
	教職資格科目	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>〔キーワード：教育実習、現場体験〕</p> <p>中学校や高等学校で教週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習				
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習				
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習				
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習				
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習				
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習				
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習				
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習				
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習				
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告				
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出				
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論				
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出				
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論				
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす				
評価方法及び評価基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点（50点）と教育実習校返送評価点（50点）を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。									
課題等	授業で指示します。									
事前事後学修	事前指導は3回に分けて、(1)教育実習中の諸注意、(2)現場の教員による教育現場の実際を中心に行う。事後指導は2回に分けて、(1)各自の教育実習の総括、(2)今後の教育現場の理想の姿を探索する。									
教材教科書参考書	教育実習ファイル（事前指導初回に配布）									
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。									

科目名	教職実践演習(中・高)		科目ナンバリング	T-TLPR4-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	L10073		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志、 川村 泰弘(実務経験のある教員)、 佐藤 萬昭(実務経験のある教員)			授業 形態	演習	オムニバス	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 教員免許状の取得に必要な教科に関する科目、教職に関する科目等を履修し終えた段階において、これらの知識・技能を総合して、学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際、それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に、教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し、これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	今まで大学で学んだことを踏まえ、教員として実務を行うことができる									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			これまでの学修を振り返る				担当：奥野		
第2回	教育現場の問題			各自が実習中に感じた教育現場の問題点について報告する						
第3回	実践的問題と教育学研究の架橋 ①			第2回の発表内容を基に関心が近い者同士でグループを組み、関連する教育学論文を収集のうえ、解決策を考える						
第4回	実践的問題と教育学研究の架橋 ②			第3回で各グループがまとめた解決策について発表し、その是非についてクラス全体でディスカッションを行う						
第5回	教科指導の実際 ①			教科ごとに模擬授業を行う				担当：奥野/招聘講師		
第6回	教科指導の実際 ②			現職教員と共に模擬授業の総括を行う						
第7回	特別活動指導の実際			学級における話し合い活動の進め方をロールプレイングで考える						
第8回	学級経営の実際 ①			学級開きと最初の一週間の取組について構想を練る(全体発表)				担当：佐藤		
第9回	学級経営の実際 ②									
第10回	生徒指導の実際 ①			いじめへの対応について考える(グループ討議・全体発表)						
第11回	生徒指導の実際 ②									
第12回	保護者との対応			多様化する保護者像の理解を図るとともに、教師の最大の理解者であり協力者である保護者との信頼関係の構築について、面談や電話応対時のかかわり方を通して考える。(グループ討議・発表)						
第13回	個を生かす			一人一人の生徒は、それぞれの価値観に基づいて物事をとらえ、思考し、判断し、表現する存在であることを、1枚の写真のもつ情報やメッセージを読み取る、複数の写真をつなげて物語を構成するなどフォトランゲージの活動を通して問い直す。						
第14回	社会人の常識とマナー			社会人として知っておくべき常識やマナーを事例やロールプレイを通して確認し、4月からの社会人生活に備える。						
第15回	総括			・これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する ・教職履修ファイル「自己評価」欄の記入				担当：全員		
評価方法及び評価基準	各担当者により出される課題：25点 x 4名									
課題等	各担当者より適宜掲示にて指示する									
事前事後学修	「教職履修ファイル」によるこれまでの学修成果の復習(各回60分)									
教材教科書参考書	・「教職履修ファイル」 ・各受講者の免許種に対応した学習指導要領(最新版)及び同解説(最新版)									
留意点	教職課程最後の科目となる。「教職履修ファイル」を基に、これまでの教職課程の内容及び教育実習の内容をよく振り返ったうえで受講すること。なお、本科目は不定期開講の集中講義となるため、日程については掲示板をよく確認すること。									

科目名	障害者教育論		科目ナンバリング	W-KYT01-01.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50059		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 世界や日本の障害児に対する教育の歴史の変遷をたどるとともに、種々の障害の特徴や係わりの基礎的・基本的事項を中心に、特別支援教育制度の推進について理解を深める。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 世界及び日本の障害者に対する歴史の変遷を説明できる。 2 種々の障害の特徴について説明できる。 3 特別支援教育の理念と特別支援教育制度に関する基本的事項について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	特別支援教育の理念と基本的な考え			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サラマンカ声明」について調べておくこと。</li> <li>・「障害」とは、障害観の変遷、国際生活機能分類</li> <li>・インクルーシブ教育システム構築の現状</li> </ul>						
第2回	障害児教育の歴史			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京都盲啞院」「養護学校義務化」について調べておくこと。</li> <li>・明治から現在に至るまでの障害者教育と世界の障害児教育</li> <li>・授業内容をもとに「日本国障害児教育の歴史」をまとめる。</li> </ul>						
第3回	特別支援教育の現行制度			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「青森県の特別支援学校」を調べておくこと。</li> <li>・特別支援教育及びインクルーシブ教育システム</li> <li>・就学先決定の仕組み手続き、学習指導要領、教員免許制度</li> </ul>						
第4回	自立活動			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立活動」について調べておくこと。</li> <li>・自立活動とは、自立活動の目標と内容(6区分26項目)</li> <li>・自立活動の指導の留意点についてまとめる。</li> </ul>						
第5回	支援システムの構築と法的整備			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「センター的機能:コーディネーター」について調べておくこと。</li> <li>・センター的機能:特別支援教育コーディネーターとは</li> <li>・特別支援学校が果たすセンター的機能の具体的内容をまとめる。</li> </ul>						
第6回	個別の指導計画及び個別の教育支援計画			<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期にわたる支援計画について調べておくこと。</li> <li>・個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成</li> <li>・二つの計画の違いについてまとめる。</li> </ul>						
第7回	視覚障害の特徴と理解			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「視覚障害」について調べる。</li> <li>・視覚障害の障害特徴と教育の場</li> <li>・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第8回	聴覚障害の特徴と理解			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聴覚障害」について調べる。</li> <li>・聴覚障害の障害特徴と教育の場</li> <li>・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>					レポート提出	
第9回	知的障害の特徴と理解			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知的障害」の定義を調べておくこと。</li> <li>・知的障害の障害特徴と教育の場</li> <li>・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第10回	肢体不自由・病弱・重複障害の特徴と理解			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「肢体不自由、病弱、重複障害」の定義を調べておくこと。</li> <li>・肢体不自由、病弱、重複障害の特徴と教育の場</li> <li>・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第11回	学習障害・注意欠陥多動性障害・自閉症の特徴と理解			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「LD、ADHD、AS」の定義を調べておくこと。</li> <li>・学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の障害特徴と教育の場</li> <li>・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第12回	情緒障害・言語障害の特徴と理解			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情緒障害、言語障害」の定義を調べておくこと。</li> <li>・情緒障害、言語障害の障害特徴と教育の場</li> <li>・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第13回	幼稚園等における特別支援教育			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園における支援体制の整備」について調べておくこと。</li> <li>・園内組織の整備と特別支援教育の推進</li> <li>・授業内容をもとに障害特徴と指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第14回	高等学校における特別支援教育			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高等学校における支援体制の整備」について調べておくこと。</li> <li>・校内組織の整備と特別支援教育の推進</li> <li>・校内支援とコーディネーターの役割をまとめる。</li> </ul>						
第15回	特別支援教育のまとめ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配付した資料の内容を整理・確認すること。</li> <li>・障害者教育の要点</li> <li>・改めて授業内容の要点を確認する。</li> </ul>					レポート提出	
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加度(30%)、レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。</p>									
課題等	レポートについて、授業で指示します。									
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	<p>教科書：『はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために 改定版』 有斐閣アルマ 他に、適宜資料を配付する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)は常時手許において参照できるようにすること。 参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかもがわ</p>									
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「特別支援教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	知的障害者の心理 I		科目ナンバリング	W-KYT02-02.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50060		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 知的障害の概念及び知的障害児・者の心理に関する基本的事項を理解し、指導・支援を検討するための知識・技能を修得することを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>心身の発達、心理機能の基本的理解を行い、知的障害のアセスメント方法やその課題等についても理解する。知的障害者一般についての特性を理解したうえで、個人ごとの特性に応じた具体的な指導のヒントを検討できるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	知的障害の捉え方			障害概念と知的障害概念の変遷						
第2回	知的障害と学校			知的障害を対象とした学校教育、インクルーシブ教育システム						
第3回	知的障害の理解方法			実態把握の進め方、実態把握から指導へ						
第4回	心理アセスメント			心理アセスメントの目的と方法、検査者の資格						
第5回	多面的な理解			心理検査の種類、情報共有の在り方						
第6回	知的機能のアセスメント			知能検査の種類と特徴、ウェクスラー式、ビネー式等						
第7回	知的障害の感覚・知覚			感覚・知覚機能の基礎、感覚、知覚、認知、視知覚						
第8回	知的障害の視知覚機能			視知覚機能の特徴と指導上の配慮						
第9回	知的障害の運動機能と運動発達			運動機能の発達と運動・スポーツ、不器用さ						
第10回	運動機能の課題と指導の工夫			運動機能改善における指導の工夫						
第11回	生涯教育としての運動			日常生活場面、スポーツにおける運動機会						
第12回	知的障害の学習			オペラント条件付け、見本合わせ法						
第13回	学習指導の工夫			課題分析、ICTの活用						
第14回	知的障害の指導における課題			レポート作成及び発表					レポート提出	
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	<p>定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。</p>									
課題等	<p>講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。</p>									
事前事後学修	<p>知的障害の特徴について理解を深めるためにも、一般的な発達について学ぶこと。</p>									
教材教科書参考書	<p>参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5</p>									
留意点	<p>小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。</p>									

科目名	知的障害者の心理Ⅱ		科目ナンバリング	W-KYT03-03.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>知的障害児・者の行動類型、パーソナリティ、社会性や対人関係、コミュニケーションなどを問題として考える。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>知的障害児・者の行動特性、集団への参加と家庭生活や学校生活への適応、コミュニケーションの問題を理解し、その基礎となっている社会性や対人関係、言語能力などの発達を考慮して指導の工夫ができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	パーソナリティと情動特性			パーソナリティ特性や情動的特性						
第2回	知的障害児の行動特徴			行動特徴、「硬さ」概念の再検討						
第3回	動機づけ			パーソナリティ及び動機づけに影響する要因						
第4回	社会性と対人関係			社会性・対人関係の基礎、共同注意、心の理論						
第5回	集団生活への参加			乳幼児期の人間的ふれあい、集団生活への参加						
第6回	自閉症児の情動理解			顔や視線への感受性、情動理解の特徴						
第7回	言語発達の基礎			言語獲得の流れ、理解と表出、						
第8回	非言語的コミュニケーション			非言語的意思表現、サイン言語による意思伝達の方法						
第9回	言語的コミュニケーション			音声知覚の発達、話し言葉・文字による意思表現の方法						
第10回	幼児期のアセスメント			活動を通じたアセスメント、心理的道具としての絵本						
第11回	絵本の構造と発達順序性			母子活動と絵本の構造、物語理解の発達順序性						
第12回	言語コミュニケーションの機能			社会的相互作用、フォーマット、スクリプト						
第13回	コミュニケーションの指導			社会的文脈、ルーティン、インリアル指導、						
第14回	指導上の課題と提案			レポート作成及び発表				レポート提出		
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	<p>定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%)</p> <p>毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。</p>									
課題等	<p>講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。</p>									
事前事後学修	<p>講義内容に関連した具体的な事例に接する機会を設けるように努めること。</p>									
教材教科書参考書	<p>参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5</p>									
留意点	<p>小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。</p>									

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理		科目ナンバリング	W-KYT02-04.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L50062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          肢体不自由児・者の生理・病理について脳性まひを中心に概説し、その運動障害、行動と心理特性について触れ、学習上や生活上の困難を克服・改善するための対応について検討する。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	肢体不自由は四肢体幹の永続的な障害をいうが、中枢神経系の障害である脳性まひ及び骨関節等の障害に関する生理・病理や行動、心理について学び、自立活動の充実など教育の在り方を考える基礎を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 肢体不自由の概念と就学措置			授業の内容と進め方の説明、肢体不自由の語源と定義、障害の特性、高木憲次						
第2回	肢体不自由教育の歴史			肢体不自由教育の歴史、今日的課題						
第3回	運動機能の発達と障害			運動機能の発達、原始反射、歩行の獲得						
第4回	肢体不自由をもたらす疾患			脳性まひの運動・動作、身体の動き						
第5回	肢体不自由をもたらす疾患			二分脊椎、関節疾患、骨形成不全、進行性疾患						
第6回	障害の理解の方法			障害の一般的理解、個人の事例としての理解						
第7回	重複障害			実態把握、重度・重複障害児、健康の保持						
第8回	重複障害児の対人相互交渉			対人相互交渉の捉え方						
第9回	重度・重複障害児			重度・重複障害児の特性、指導に必要な工夫と配慮						
第10回	肢体不自由児の自立活動			自立活動の計画、課題・内容の設定、評価の視点						
第11回	肢体不自由児の自立活動			生活上の課題、学習上の課題、ポジショニング、教材・教具						
第12回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の社会性、コミュニケーション、認知・思考						
第13回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の心理・行動上の困難、障害受容、ADL						
第14回	肢体不自由教育の課題			肢体不自由教育の課題と考え方				レポート提出 発表		
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前事後学修	各回の内容に応じて、関連する情報を各自整理すること。									
教材教科書参考書	参考書 川間健之介 長沼俊夫 著 肢体不自由児の教育〔新訂〕放送大学教育振興会 2020 ISBN978-4-595-32171-9									
留意点	障害の有無に拘わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。									

科目名	病弱者の心理・生理・病理		科目ナンバリング	W-KYT02-05.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50063		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病気対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考える。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション、病弱の概念			授業の内容と進め方の説明、病弱の概念						
第2回	病弱教育の捉え方			病弱教育に関する体験やイメージ						
第3回	病弱教育の変遷・教育課程			病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法						
第4回	病弱児の心理			病弱児の心理理解の視点						
第5回	主な病気の概要と教育支援			小児がん：白血病						
第6回	主な病気の概要と教育支援			アレルギー疾患：ぜん息						
第7回	主な病気の概要と教育支援			糖尿病						
第8回	主な病気の概要と教育支援			てんかん						
第9回	主な病気の概要と教育支援			精神性疾患						
第10回	病弱教育における情報化			病弱教育における情報化の意義と課題						
第11回	キャリア教育			キャリア教育の背景、病弱児の社会的自立とは						
第12回	病弱児と医療的ケア			重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容						
第13回	教育と医療・福祉等との連携			病弱児に関係する諸制度、多職種連携の在り方						
第14回	病弱児教育上の課題			課題の把握と今後の学習テーマ					レポート提出 発表	
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前事後学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。									
教材教科書参考書	参考書 日本育療学会編著 標準「病弱児の教育」テキスト ジアース教育新社 2019 ISBN978-4-86371-493-9									
留意点	病弱・障害の有無に関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。									

科目名	知的障害者教育論		科目ナンバリング	W-KYT02-06.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50064		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>特別支援学校教諭免許取得に必要な履修科目である。知的障害教育に関する基礎的内容を解説する。知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における指導にあたり、児童生徒の心理的特性や学習上の特性、教育課程の編成、教育内容、指導方法等について解説する。知的障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす教育活動を進めていく上での基本的な問題について検討する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 知的障害教育の対象や就学先決定の仕組みと手続きについて理解する。</p> <p>(2) 知的障害のある児童生徒の心理的特性及び学習上の特性について理解する。</p> <p>(3) 知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。</p> <p>(4) 知的障害教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション 知的障害教育の歴史(1)			各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。欧米における知的障害の問題成立から知的障害教育の成立・発展過程を概観し、欧米における知的障害のある児童生徒に対する教育の変遷についての理解を深める。						
第2回	知的障害教育の歴史(2)			日本における知的障害教育の成立・発展過程を概観する。戦後を中心に知的障害教育に関する教育制度の整備状況や教育実践の変遷について理解を深める。今日の知的障害教育の現状と課題について考察する。						
第3回	知的障害の定義・原因・発見			世界保健機関や米国における知的障害の定義及び分類を概説するとともに、日本における知的障害の定義について解説する。知的障害の原因と発見について理解を深める。						
第4回	知的障害のある児童生徒の心理的特性			知的障害のある児童生徒の障害の程度による身体面及び運動面、知覚面、行動面等の状態像や基本的心理特性について解説する。コミュニケーション面の発達について、知的機能面や対人関係面の発達、養育環境面等から理解を深める。						
第5回	就学先決定のあり方と教育の場			障害のある子どもの就学先決定の仕組みと手続きを解説し、知的障害のある児童生徒の就学先決定のあり方について理解を深める。知的障害のある児童生徒に対する提供可能な教育機能について理解を深める。						
第6回	知的障害特別支援学校における教育課程の編成			知的障害特別支援学校の目的及び教育目標について解説する。知的障害特別支援学校の小学部・中学部・高等部の特徴的な教育課程の編成について理解を深める。						
第7回	知的障害教育における指導の基礎的・基本的事項			知的障害のある児童生徒個々に応じた指導・支援のあり方に関して解説する。学習への動機づけや個人差への配慮、過剰学習、個々の教育的ニーズに即応した指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。						
第8回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(1)			知的障害特別支援学校における指導形態として、各教科等を合わせた指導について解説する。日常生活の指導と遊びの指導を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。						
第9回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(2)			各教科等を合わせた指導として、生活単元学習を取り上げる。生活単元学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し生活単元学習の理解を深める。						
第10回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(3)			各教科等を合わせた指導として、作業学習を取り上げる。作業学習の指導のねらいや指導内容、指導計画、指導の展開における指導上の留意点について解説する。指導事例を紹介し作業学習の理解を深める。						
第11回	知的障害教育における指導の形態 教科別の指導			知的障害のある児童生徒の学習上の特性及び教科指導と教育課程との関連、指導上の留意点について解説する。知的障害特別支援学校における各教科の指導事例を通し、知的障害のある児童生徒に対する教科別の指導の理解を深める。						
第12回	知的障害教育における指導の形態 自立活動の指導			知的障害特別支援学校の自立活動の目標や指導内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて解説する。自立活動の指導と実践事例を紹介し、自立活動の指導方法や指導上の留意点について理解を深める。						
第13回	知的障害特別支援学級の学級経営及び指導の実際			知的障害特別支援学級の学級経営について解説する。教育目標の設定、教育課程の編成、学級経営等の配慮事項について理解を深める。各教科等の指導にあたり、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。						
第14回	交流及び共同学習			交流及び共同学習の意義や学習の形態、内容、実施計画、実施上の留意点、評価等について解説する。知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級における実践事例を通し、交流及び共同学習の理解を深める。						
第15回	知的障害教育におけるキャリア教育及び進路指導			知的障害特別支援学校小学部・中学部・高等部におけるキャリア教育の意義やキャリア教育のねらい、内容等について解説する。知的障害のある児童生徒の進路指導について、実践事例を通し理解を深める。						
評価方法及び評価基準	<p>評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価(100点, 100%)をする。</p> <p>定期試験50点, 50% 知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。</p> <p>課題レポート30点, 30% 授業後に出席する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。</p> <p>授業への参加度20点, 20% 授業への参加度について評価する。</p>									
課題等	授業後に出席する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。									
事前事後学修	各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害教育に関する基本的内容の習得をめざす。									
教材教科書参考書	河合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳編著 『特別支援教育総論—インクルーシブ時代の理論と実践—』, 北大路書房 ISBN:978-4-7628-2949-9									
留意点	今日のインクルーシブ教育の構築をめざした教育の取り組みの中で、知的障害のある児童生徒個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の習得に努めてください。授業中に紹介する関連図書を調べ知的障害教育の理解を深めてください。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅰ		科目ナンバリング	W-KYT02-07.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>肢体不自由教育の歴史、現状、児童生徒の理解、教育課程の編成、指導の内容・方法等に関する理論や知識を学び、肢体不自由教育の基本について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 肢体不自由教育の歴史の変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害についてまとめる。</p> <p>2 肢体不自由教育における自立活動の重要性や主な指導内容について説明できる。</p> <p>3 肢体不自由教育における教育課程編成に関する基本的事項について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	ガイダンス、肢体不自由教育の理念			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「クルュッペルハイム」について調べておくこと。</li> <li>・クルュッペルハイムの理念</li> <li>・高木憲次が肢体不自由教育に及ぼした影響をまとめる。</li> </ul>						
第2回	肢体不自由教育の歴史			<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏学園、都立光明特別支援学校について調べておくこと。</li> <li>・整形外科学の発展と肢体不自由教育</li> <li>・講義内容を基に我が国の肢体不自由教育の歴史をまとめる。</li> </ul>						
第3回	肢体不自由教育の現状と仕組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度青森県の特別支援教育で学校・在籍数等を調べておくこと</li> <li>・就学制度と特別支援学校数、特別支援学級数、在籍児童生徒数等</li> <li>・県内の肢体不自由者の教育の場をまとめる。</li> </ul>						
第4回	肢体不自由児の理解			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「肢体不自由」の定義を確認しておくこと。</li> <li>・起因疾患と障害の理解</li> <li>・肢体不自由教育における起因疾患と変遷をまとめる。</li> </ul>						
第5回	肢体不自由の障害特性と教育の意義			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「肢体不自由の障害特性」について調べておくこと。</li> <li>・肢体不自由の障害特性に応じた教育の役割</li> <li>・講義内容を基に学校でできるわらいや配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第6回	教育課程Ⅰ 教育課程編成の基本			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育課程の意義」について調べておくこと。</li> <li>・教育課程編成の手順と評価</li> <li>・教育課程編成に関する法令についてまとめる。</li> </ul>						
第7回	教育課程Ⅱ 重複障害者等に関する教育課程の取扱い			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」を調べておくこと。</li> <li>・学校教育法施行規則と学習指導要領における規定</li> <li>・講義内容を基に各規定のポイントについてまとめる。</li> </ul>						
第8回	教育課程Ⅲ 特別支援学校における教育課程編成			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育課程の類型化」について調べておくこと。</li> <li>・多様性に応じた教育課程編成の工夫</li> <li>・肢不特別支援学校の教育課程編成についてまとめる。</li> </ul>					レポート提出	
第9回	教育課程Ⅳ 小・中学校における教育課程編成			<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級や特別支援学級での困り感について予想しまとめておくこと。</li> <li>・通常学級や特別支援学級における適切な学習</li> <li>・教育課程編成における両者の比較についてまとめる。</li> </ul>						
第10回	肢体不自由教育の指導Ⅰ 自立活動			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立活動」の目的と内容について調べておくこと。</li> <li>・肢体不自由の特性に応じた自立活動の具体的内容</li> <li>・肢体不自由に関連が深い内容と配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第11回	肢体不自由教育の指導Ⅱ 身体の動き			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「筋緊張、関節可動域、拘縮、運動発達」について調べておくこと。</li> <li>・肢体不自由の特性に応じた身体機能を高める学習</li> <li>・姿勢と運動の指導における注意事項をまとめる。</li> </ul>						
第12回	肢体不自由教育の指導Ⅲ コミュニケーション			<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児のコミュニケーション障害について調べておくこと。</li> <li>・コミュニケーションを豊かにする指導内容と補助的手段の活用</li> <li>・自立活動のコミュニケーション区分の5項目についてまとめる。</li> </ul>						
第13回	肢体不自由教育の指導Ⅳ 医療的ケア			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療的ケア」について調べておくこと。</li> <li>・医療的ケアの内容と実施に係る制度</li> <li>・医療的ケアを実施するための研修制度についてまとめる。</li> </ul>						
第14回	肢体不自由の特性に応じた指導			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ムフメント教育、動作法、図と地」について調べておくこと。</li> <li>・感覚-運動、視覚に働きかける学習</li> <li>・運動療法、心理療法についてまとめる。</li> </ul>						
第15回	肢体不自由教育Ⅰのまとめ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「肢体不自由者教育総論Ⅰ」での資料や小テストを整理・確認すること。</li> <li>・肢体不自由者教育論Ⅰの要点</li> <li>・改めて要点を確認して試験に備える。</li> </ul>					レポート提出	
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加度（30%）、レポート（30%）、試験（40%）により総合的に評価する。</p> <p>なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。</p>									
課題等	レポートについて、授業で指示します。									
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	<p>安藤隆男・藤田継道編著（2015）『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房他に、適宜資料を配布する。なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、③同解説 各教科等編（小学部・中学部）、④同解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）は、常時手許において参照できるようにすること。</p> <p>参考書：『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかもがわ</p>									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅱ		科目ナンバリング	W-KYT03-08.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50066		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>肢体不自由者教育総論Ⅰで学んだ基本を踏まえ、授業見学や映像視聴及び演習等を通して、肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、教育観について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 肢体不自由教育の実践を見学し、特別支援学校や特別支援学級での学習活動についてまとめる。</p> <p>2 肢体不自由教育における個々の実態に応じた具体的学習課題を選定することができる。</p> <p>3 肢体不自由教育の課題や展望に関する基本的事項についてまとめる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校現場の実際(1) 特別支援学校における教育			<ul style="list-style-type: none"> <li>青森県内の特別支援学校(肢体不自由)のHPを調べておくこと</li> <li>小中高等部の概要、教育課程の編成</li> <li>各校の状況を確認し、取組の現状を説明できる。</li> </ul>						
第2回	学校現場の実際(2) 特別支援学校における教育			<ul style="list-style-type: none"> <li>北東北県内の特別支援学校(肢体不自由)のHPを調べておくこと</li> <li>センター的機能 ・ 医療的ケア ・ 進路指導</li> <li>各校の状況を熟読し、教育課程のあり方を説明できる。</li> </ul>						
第3回	特別支援教育とICT			<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用、自作教材・教具の作成と活用</li> <li>教材・教具作成上のポイントについてまとめる。</li> </ul>						
第4回	保護者との連携			<ul style="list-style-type: none"> <li>「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。</li> <li>保護者との連携、関連機関との連携</li> </ul>						
第5回	指導の実際Ⅰ 脳性まひ			<ul style="list-style-type: none"> <li>「脳性まひ」について調べておくこと。</li> <li>特別支援学校における脳性まひ児の学習の実際</li> <li>講義内容を基に脳性まひの指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第6回	指導の実際Ⅱ 重複障害(1)			<ul style="list-style-type: none"> <li>「健全乳幼児の発達」に関する資料について調べておくこと。</li> <li>領域別発達段階表を活用した重症心身障害児の実態理解</li> <li>領域別発達プロフィールの作成手順についてまとめる。</li> </ul>						
第7回	指導の実際Ⅲ 重複障害(2)			<ul style="list-style-type: none"> <li>「最近接領域」について調べておくこと。</li> <li>発達課題から導き出される具体的指導内容</li> <li>領域別発達プロフィールから指導内容を考えレポートする。</li> </ul>						
第8回	指導の実際Ⅳ 進行性筋ジストロフィー			<ul style="list-style-type: none"> <li>「進行性筋ジストロフィー」について調べておくこと。</li> <li>特別支援学校等における筋ジストロフィーの学習の実際</li> <li>講義内容を基に筋ジストロフィーの指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>					レポート提出	
第9回	指導の実際Ⅴ 二分脊椎、先天性骨形成不全			<ul style="list-style-type: none"> <li>「二分脊椎、先天性骨形成不全」について調べておくこと。</li> <li>特別支援学校等における先天性骨形成不全の学習の実際</li> <li>講義内容を基に先天性骨形成不全の指導上の配慮事項をまとめる。</li> </ul>						
第10回	キャリア教育と進路指導			<ul style="list-style-type: none"> <li>「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」</li> <li>キャリア教育の定義と意義</li> </ul>						
第11回	関係機関との連携			<ul style="list-style-type: none"> <li>「療育、医協連携、個別の教育支援計画」について調べておくこと。</li> <li>特別支援学校と隣接医療機関との連携の実際</li> <li>肢体不自由教育における関係機関との連携による効果をまとめる。</li> </ul>						
第12回	インクルーシブ教育システム構築における肢体不自由教育			<ul style="list-style-type: none"> <li>「インクルーシブ教育システムの構築」について調べておくこと。</li> <li>肢体不自由に応じた合理的配慮の観点</li> <li>期待されるコーディネーターの役割をまとめる。</li> </ul>						
第13回	肢体不自由教育に関連する福祉制度等の活用			<ul style="list-style-type: none"> <li>「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。</li> <li>肢体不自由教育を支える諸制度とその活用</li> </ul>						
第14回	肢体不自由教育の課題と展望			<ul style="list-style-type: none"> <li>「障害者差別解消法」について調べておくこと。</li> <li>障害者基本法の改正等と学校教育</li> <li>肢体不自由教育の今後の在り方についてまとめる。</li> </ul>					レポート提出	
第15回	肢体不自由教育Ⅱのまとめ			<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で配付した資料や小テストの内容を整理・確認すること。</li> <li>肢体不自由者教育論Ⅱの要点</li> <li>改めて授業内容の要点を確認して試験に備える。</li> </ul>						
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加度(30%)、レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。</p> <p>なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。</p>									
課題等	小レポートや課題レポートについて、授業で指示します。									
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	<p>教科書 安藤隆男・藤田継道編著(2015) 『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房他に、適宜資料を配布する。なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)は、常時手許において参照できるようにすること。</p> <p>参考書: 『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかもがわ</p>									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	病弱者教育論		科目ナンバリング	W-KYT02-09.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50067		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕          特別支援学校教諭免許取得に必要な履修科目である。病弱教育に関する基礎的内容を解説する。病弱教育の意義及び児童生徒の心理的特性や学習上の特性について解説する。病弱特別支援学校を中心に、教育課程の編成、個別の指導計画、指導方法、指導上の留意点等指導・支援に関する基礎的・基本的事項を解説する。病弱教育対象の児童生徒の主な病気を取り上げ、児童生徒理解と教育的支援のあり方について理解を図る。          〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 病弱教育の対象となる病気と医療・教育的支援内容について理解する。          (2) 病弱・身体虚弱児の心理的特性及び学習上の特性について理解する。          (3) 病弱特別支援学校における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。          (4) 病弱教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション 病弱教育の意義			各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。病弱と身体虚弱の定義について解説する。病弱教育の意義について理解を深める。						
第2回	病弱教育の歴史			日本における病弱教育の成立・発展過程を概観する。戦後の病弱教育に関する教育制度の整備状況を解説する。今日の病弱教育の現状と課題について考察する。						
第3回	就学先決定のあり方と教育の場			病弱教育対象の児童生徒の病気の種類の推移を概観する。就学先決定の仕組みと手続きを解説し、就学先決定のあり方について理解を深める。病弱・身体虚弱児に対する提供可能な教育機能について理解を深める。						
第4回	病弱・身体虚弱児の心理的特性			病弱・身体虚弱児に見られる悩みや不安等を取り上げ、心理・行動面の特徴的な状態像について理解を深める。発達段階から見た心理社会的問題点について考察する。						
第5回	病弱特別支援学校における教育課程の編成			教育課程の意義及び教育課程に関する法令や基本的な要素を解説する。病弱特別支援学校高等部における教育課程の具体例を紹介し、教育課程の編成について理解を深める。						
第6回	病弱教育における各教科の指導			各教科の指導にあたり、児童生徒の学習上の特性、指導目標の設定、指導内容の精選、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。病弱・身体虚弱児に対する教科指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。						
第7回	病弱教育における自立活動の指導			自立活動の指導にあたり、実態把握、指導目標の設定、指導内容の選定、指導計画の作成、指導上の留意点について解説する。自立活動の指導に関する基礎的・基本的事項について理解を深める。						
第8回	病弱者教育におけるキャリア教育及び進路指導			病弱者教育におけるキャリア教育及び進路指導について解説する。病弱特別支援学校高等部における就労体験等を含む職業教育の具体的な取り組み、卒業後の追指導や関係機関との連携・支援について理解を深める。						
第9回	白血病の児童生徒の理解と教育的支援			白血病の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						
第10回	ネフローゼ症候群の児童生徒の理解と教育的支援			ネフローゼ症候群の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						
第11回	気管支ぜんそくの児童生徒の理解と教育的支援			気管支ぜんそくの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						
第12回	単純性肥満の児童生徒の理解と教育的支援			単純性肥満の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						
第13回	筋ジストロフィーの児童生徒の理解と教育的支援			筋ジストロフィーの児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						
第14回	心身症の児童生徒の理解と教育的支援			心身症の児童生徒の身体面や心理面、生活面、学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						
第15回	重症心身障害児の理解と教育的支援			重症心身障害児の一般的特徴や状態像について概説し、重症心身障害児の理解を深める。医療的ケアの取り組みについて解説する。各教育の場における学習や生活指導等に関する教育的支援について理解を深める。						
評価方法及び評価基準	<p>評価は、定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合評価（100点、100%）をする。          定期試験50点、50% 病弱教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。          課題レポート30点、30% 授業後に出席する課題について、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。          授業への参加度20点、20% 授業への参加度について評価する。</p>									
課題等	<p>授業後に出席する課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。</p>									
事前事後学修	<p>各回の授業について、授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む          授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。病弱教育に関する基本的内容の習得をめざす。</p>									
教材教科書参考書	<p>宮本信也・土橋圭子編集 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』、金芳堂          ISBN:978-4-7653-1627-9</p>									
留意点	<p>今日のインクルーシブ教育のシステム構築をめざした特別支援教育の取り組みの中で、病弱・身体虚弱児個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の修得に努めてください。保護者理解及び生命倫理、人生観などについて考えて欲しい。          授業中に紹介する関連図書を調べ病弱教育の理解を深めてください。</p>									

科目名	視覚障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-10.	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50073		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	中村 紹子			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>視覚障害教育の基礎・基本的な知識、理論を学ぶ。全盲、弱視（ロービジョン）の教育方法や内容を解説する。疑似体験や演習により理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚障害教育における生理・病理・心理を学習する。</li> <li>2. 視覚障害教育の基本的な内容を理解する。</li> <li>3. 視覚障害教育について興味・関心を持ち積極的姿勢で授業に参加し、特別支援教育を担う心構えを身に着ける。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	視覚障害、眼疾患と教育の場			視機能、視知覚、眼疾患の基礎知識 教育の場と実態把握						
第2回	視覚障害児の指導（弱視児）			見えやすい環境整備、教材、弱視レンズ、各教科での指導						
第3回	視覚障害児の指導（盲児）			触覚、触察、点字、各教科での指導						
第4回	点字			点字の歴史、概要、仕組み						
第5回	歩行指導			白杖の役割、メンタルマップ、援助依頼、手引き歩行						
第6回	視覚障害乳幼児の発達と支援			運動・動作、認知・言葉・社会性の発達、保護者支援						
第7回	教材教具と活用、自立活動			教科書、視覚補助具、グッズ ADL、手指の使い方、運動動作						
第8回	視覚障害教育を支える、総括			教育・医療・福祉の連携 スポーツ、障害者への理解推進						
評価方法及び評価基準	各講義後の小レポート（40点）、全部終了後にレポート（60点）を提出してもらう。									
課題等	予定していないが、講義の進度による。									
事前事後学修	講義後のレポートについて、次回解説して理解を深める。									
教材教科書参考書	資料を配布する。									
留意点	集中して、授業やレポートに取り組んでほしい。									

科目名	聴覚障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-11.	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50069		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 聴覚障害特別支援学校における教育を中心に、聴覚障害教育の制度や歴史および現状、聞こえの仕組みやその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について理解する。そのうえで、聴覚障害の早期発見と保護者支援、聴覚障害教育における教育課程や指導方法等についての学びを深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 聴覚障害教育の歴史を、聴覚障害教育に尽くした人物と主な業績および指導方法の変遷から説明することができる。 2 聞こえの仕組みとその障害、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について説明することができる。 3 聴覚障害児教育の教育課程や指導方法の概要等について説明することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	聴覚障害児教育の歴史			聴覚障害児教育の発展に尽力した人々とその業績、指導方法の変遷等を通して我が国聴覚障害教育の歴史を理解する。				毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	聞こえの仕組みと障害の種類			聞こえの仕組み、障害を受けた部位による聴覚障害の分類とその特徴、障害による聞こえの型について理解する。						
第3回	障害の早期発見と保護者支援			聴覚障害の早期発見と保護者支援の必要性を理解するとともに新生児聴覚検査法について理解する。				小テスト1		
第4回	オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法および補聴器の取扱い			オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法について理解し、四分法で平均聴力を算出する。補聴器の保守について理解する。						
第5回	聴覚障害者の言語の獲得と言語使用の特徴			聴覚障害であることによる言語の獲得の困難と言語使用の特徴について理解する。				小テスト2		
第6回	聴覚障害とコミュニケーション			聴覚障害児の指導で用いられている手話、筆記、聴覚口話、指文字、キューサイン等のコミュニケーション手段の長所と短所を理解する。						
第7回	聴覚障害教育の教育課程			聴覚障害特別支援学校(小～高等部)における教育課程編成の基本的な考え方と各教科等の指導の工夫について理解する。				小テスト3		
第8回	聴覚障害教育における自立活動			聴覚障害教育における自立活動の内容と指導上の留意事項について理解する。				小テスト4		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート課題40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：講義開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：「聴覚障害教育と手話」に関するレポート(1200字程度)により評価する。 ※予習シート及びレポートは、別途配布する評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説(総則等編・自立活動編)は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	重複障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-12.	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50070		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 障害が重複し、重度である障害児であっても、それぞれに多様な教育的ニーズを抱えていることを理解し、学校教育として何を目標に、どのような内容・方法で教育・支援を行っていくべきかを考える。講義に加えて、重複障害、重症心身障害児の日常を記録したドキュメンタリー映画等の視聴を通して、重複障害の特性と実態把握、心理と教育課題、さらには医療や福祉との連携の大切さについて学ぶ。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 重複障害の定義を説明できる。</li> <li>2 重複障害児に対する教育の現状、重複障害者等に関する教育課程編成の取扱いの概要を説明するとともに、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を身につける。</li> <li>3 重複障害児の障害状況に応じた課題学習と具体的な指導方法を選択することができる。</li> <li>4 教育と医療や福祉との連携の必要性を説明できる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	重複障害の定義と関連する用語			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示す重複障害の定義を理解する。</li> <li>・重度・重複、重症心身障害等関連用語を理解する。</li> </ul>				毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	障害の重複・重度化の現状			<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の重複・重度化の現状と教育の場を理解する。</li> </ul>		DVD 「盲ろうの教育」視聴		小テスト1 視聴レポートを課す		
第3回	「盲ろう」の疑似体験			<ul style="list-style-type: none"> <li>・盲ろう者とその介助者役の両方を体験することを通して、重複障害者の心理と支援の基本を理解する。</li> <li>・重複障害児の指導において大切にしたい視点を整理する。</li> </ul>				視聴レポートの提出 疑似体験レポートを課す		
第4回	重複障害児のコミュニケーション			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信行動と受信行動の考えを基にした重複障害児のコミュニケーションの定義とコミュニケーション関係を築くための基本的な係わり方を理解する。</li> </ul>						
第5回	重複障害児の教育課程			<ul style="list-style-type: none"> <li>・重複障害児に対する教育課程の編成（訪問教育を含む）の基本的な枠組みを理解するとともに、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。</li> </ul>				小テスト2		
第6回	重複障害児の指導			<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導課題の設定と指導内容・方法—「感覚と運動」「学習・概念行動」・「記号操作」—を知り、あわせて指導事例を基に、個別の指導計画を作成する。</li> <li>・市販アプリやタブレット端末等を活用した生徒の自発的行動を促す指導の工夫。</li> </ul>				小テスト3		
第7回										
第8回	医療的ケアの現状と課題 まとめ			<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校等における医療的ケアの基本的な考え方と実施体制の在り方を理解する。</li> </ul>				小テスト4		
評価方法及び評価基準	<p>○予習シートの作成20%、小テスト40%、レポート40%の割合で評価する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。</li> <li>・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。</li> <li>・レポート：ドキュメンタリー映像の視聴レポート及び盲ろうの疑似体験レポートにより評価する。</li> </ul> ※予習シート及びレポートは、別途配布の評価基準表により評価する。</p>									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。  復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	発達障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-13.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L50071		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	【授業の主旨】 ASDやLD、ADHD等の発達障害について、それぞれの障害の要因や障害特性を理解する。また、感覚や認知及び行動の特性等に起因する対人関係の形成の難しさや、二次的な障害などさまざまな発達上の課題とその解決の方向性を探る。発達障害者に対する特別の教育課程の編成や、指導内容や方法を考えることを通じてカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解するとともに、地域のセンターとして特別支援学校の果たす役割の必要性を再確認する。 ※講義形式の授業であるが、可能な限り予習シートに基づく協議を取り入れる。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。									
	到達目標	1 ASDやLD、ADHD等の発達障害の要因と障害特性について説明できる。 2 発達障害者一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性に応じた基本的な教育的支援（自立活動との関連）について説明できる。 3 発達障害のある児童生徒の指導事例を通して、特別支援学校が地域のセンターとしての果たすべき役割を説明できる。 4 個別の指導計画の作成をとおして特別の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。 5 家庭や医療、福祉及び労働機関との連携の重要性を説明できる。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	教育における発達障害			発達障害者の指導の場とそれぞれにおける特別の教育課程の編成の基本的な考え方を理解する。さらに、幼稚園教育要領及び小学校、中学校又は高等学校学習指導要領に記載の障害を有する児童生徒に対する配慮事項を確認する。				毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	ASD（自閉スペクトラム症）の理解と支援			「自閉症」という概念と、その要因にまつわる歴史的経緯を理解する。						
第3回				自閉スペクトラム症の定義と障害特性を理解する。						
第4回				TEACCHプログラム、構造化、視覚的情報の活用等を中心とした自閉スペクトラム症の生徒への教育的対応を考える。						
第5回	LD（学習障害）の理解と支援			LD（学習障害）の定義と障害特性を理解する。				小テスト1		
第6回				難易度を考慮した課題提示、スモールステップ化など学習障害の学習・行動特性に応じた教育的対応を考える。 読み書きをサポートするICT教材・機器の活用について考える。						
第7回	ADHD（注意欠如・多動症）の理解			ADHD（注意欠如・多動症）の定義と障害特性を理解する。				小テスト2		
第8回				ソーシャルスキルトレーニング、環境調整などADHDの生徒への教育的対応を考える。						
第9回	校内体制の確立と関係教育機関の連携			校内委員会の役割と特別支援教育の全体計画の立案など、校内指導体制の確立と域内の幼稚園や小中学校等との連携の在り方を考える。				小テスト3		
第10回	高校通級の現状と課題			高校における「通級による指導」の導入の経緯と現状を知り、現在抱える問題点の解決のためのアイデアを考える。				ディスカッション		
第11回	発達障害児に見られる感覚と運動の問題			感覚の過反応や運動面の不器用さから学校生活の困難と自尊心の低下を招くことがある。その特性を理解し教育的対応を考える。				ディスカッション		
第12回	二次的な障害の理解と予防			二次的な障害とはどのようなことか、また、その予防的な取り組みに向けて、学校教育の中でどのような指導や支援が必要かを考える。				レポート課題の提示 ディスカッション		
第13回	個別の指導計画の作成			指導事例に基づく個別の指導計画の作成を通して特別の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基礎的な考え方を理解する。				個別の指導計画の作成（演習）と提出		
第14回	家庭や関係機関との連携と支援連携・協働			発達障害者に対する有効な指導と生活の質の向上を図るため、家庭や他機関の専門家との連携・協働のあり方を探る。				小テスト4 レポートの提出		
第15回	インクルーシブ教育の現状			合理的配慮と基礎的環境整備の現状とインクルーシブ教育システム構築の課題を理解する。						
評価方法及び評価基準	○予習シートの作成20%、小テスト40%（小テスト30% + 演習課題10%）、レポート40%の割合で評価する。 ・予習シートの作成：授業終了時に配布の予習シートを作成し、授業終了後にコピーを提出する。 ・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・レポート：「インクルーシブ教育システム、二次的な障害、合理的配慮」をキーワードに「発達障害を有する生徒の学校生活」に関するレポート（1200字）により評価する。 ※予習シート及びレポートは、別途配布の評価基準表により評価する。									
課題等	返却された小テストの間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学修	予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備えること。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。									
留意点	特別支援学校小・中部学部学習指導要領及び高等部学習指導要領とその解説（総則等編・自立活動編）は、教科書として指定しないが常時手元に置くこと。									

科目名	教育実習(特別支援)		科目ナンバリング	W-KYT03-14	単位数 時間	3単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	L50072		90時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>知的障害、肢体不自由、病虚弱を教育領域とする特別支援学校で二～三週間の教育実習を行う。 教育実習生としての心構えを持つことができるよう、講義や映像資料を通して教育現場への理解を深めるための事前指導を行う。 事後指導においては、実習全般及び研究授業等についての反省を踏まえて、改めて目指す教師像を確立する。 これらをとおして、教育実習の意義を理解する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>(事前) 1 学校教員としての基礎的なマナー、校務分掌等の校内組織の役割、教材研究の方法の理解、学習指導案の作成と模擬授業(ICT機器の操作等を含む)を通して、教育実習を実施するために必要な基礎的能力を身につけることができる。 2 教育実習に臨むための留意事項を確認し、教育実習生としての心構えを持つ。 (実習) 3 教育実習を通して、これまでに学習した理論・方法を活用して、特別支援学校教諭を目指す者として必要な、障害のある生徒に対する見方・知識・態度などを学び、指導力をつける。 (1) 生徒とのふれあいや実習校の指導教員の指導を通して、障害のある生徒の理解を深める。 (2) 求められる知識・技能・態度を学ぶ。 (3) 特別支援教育の指導者としての使命感を養い、あるべき教師像を持つ。 (事後) 4 実習指導教員及び実習校教員による指導を踏まえて、実習の整理と報告をとおして自らの授業、生徒指導、学級経営等について振り返り、教員としての適性を確認するとともに課題を整理し、改善方法を考察する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	事前指導①ガイダンス 教育実習(特別支援教育)の意義			教育実習の目的と意義を確認する。				手引を配布する		
第2回	事前指導② 特別支援学校教員の一日			教職員の勤務、服務、授業、学級事務等についての理解を深める。						
第3回	事前指導③ 学習指導案の作成			サンプルを基にした学習指導案の作成と発表・協議を行う。						
第4回	事前指導④ 模擬授業			作成した学習指導案による模擬授業の実施・協議を行う。						
第5回	事前指導⑤ 記録の作成と活用			実習日誌の記入や記録の取り方・活用の仕方を理解する。						
第6回										
第7回										
第8回										
第9回	特別支援学校における教育実習			実習校における教育実習(研究事業・授業研究を含む)に臨む						
第10回										
第11回										
第12回										
第13回	事後指導① 教育実習の成果と課題			教育実習により得た成果と課題等をまとめる。				レポート作成		
第14回	事後指導② 実習の体験発表			「レポート：特別支援学校の教育実習で学んだこと」の報告会を行う。				レポートの提出		
第15回	事後指導③ まとめ			「目指す教師像」をまとめる(履修ファイルへ綴じ込む)。						
評価方法及び評価基準	教育実習校の評価(70%)と事前・事後指導の演習・発表・レポート(30%)を加えて総合的に判断する。									
課題等	体験発表の際には、示された様式のレポートに加えて研究授業で作成した学習指導案や用いた教材・教具等を用意すること。									
事前事後学修	予習：シラバスを見て、次時の内容に関する「実習の手引」の該当箇所を読み、考えをまとめて授業に臨むこと。 復習：その日の学習内容に関するポイントを振り返りシートにまとめること。									
教材教科書参考書	教科書：学内資料『教育実習(特別支援学校)の手引』を配布する。									
留意点	実習校の校長、教頭、教育実習主任、指導教員の指導・助言を素直にかつ誠実に受け止めるよう努めること。 社会人としてふさわしい態度・服装・言葉遣いに留意すること。 「豊かな発想、確かな指導力」を念頭に、教員としての資質能力を高めるよう、積極的な実習生活を期待する。 ※実習先である特別支援学校の配属学部に関する学習指導要領とその解説は常に持参すること。									

科目名	学校図書館メディアの構成		科目ナンバリング	L-QULB2-01.NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	L20002		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	本間 維			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>学校図書館は、収集された資料を活用して各科目教育を支えたとともに、児童・生徒の読書や学習を支えたり、情報リテラシーの育成を図ったりする役割があります。利用者にとって資料を使いやすいものとするために、図書館では資料の収集や整理において様々な工夫が施されます。この科目では、学校図書館の資料群（コレクション）の構築に必要な基礎的な知識と技術を紹介します。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目録作成、分類・件名付与の基本的な作業ができる</li> <li>・資料の選択や収集にあたって注意すべき点を説明できる</li> <li>・学校図書館の役割や各種基準等に基づき、コレクション計画を考慮することができる</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校図書館の役割			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館に期待される3つのセンター機能</li> <li>・各種資料で言及される学校図書館の役割</li> <li>・学校図書館で扱われる資料</li> </ul>						
第2回	コレクション構築			<ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクション構築とは何か</li> <li>・コレクション構築の手順</li> </ul>						
第3回	資料組織法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料組織の目的と効果</li> <li>・資料組織の代表的な手法</li> </ul>						
第4回	主題分類法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題分類とは何か</li> <li>・日本十進分類法</li> <li>・その他の分類法</li> </ul>					附属図書館での実施	
第5回	実践：日本十進分類法を用いた主題付与（1）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本十進分類法の使い方</li> </ul>					附属図書館での実施	
第6回	実践：日本十進分類法を用いた主題付与（2）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・分類付与に関する演習問題</li> </ul>					附属図書館での実施	
第7回	主題索引法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題索引とは何か</li> <li>・基本件名標目</li> <li>・その他の件名標目</li> </ul>						
第8回	実践：各種件名標目を用いた主題付与（1）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本件名標目の使い方</li> <li>・国立国会図書館件名標目の使い方</li> </ul>					PCなどを用いた件名標目の検索	
第9回	実践：各種件名標目を用いた主題付与（2）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・件名付与に関する演習問題</li> </ul>					PCなどを用いた件名標目の検索	
第10回	目録法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・目録とは何か</li> <li>・日本目録規則</li> </ul>						
第11回	実践：日本目録規則を用いた目録作成			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本目録規則の使い方</li> <li>・日本目録規則を用いた書誌情報の記録</li> </ul>						
第12回	応用：Web上で公開されている目録			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各図書館のOPACで書誌情報を確認</li> <li>・学校図書館として必要な書誌事項を考える</li> </ul>					PCなどを用いた書誌情報の検索	
第13回	出版流通の仕組み			<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業出版</li> <li>・学術出版</li> <li>・再販制度と取次</li> </ul>						
第14回	選書			<ul style="list-style-type: none"> <li>・選書の方法と留意点</li> <li>・選書のためのツール</li> </ul>						
第15回	コレクションの評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクションの追加、更新、廃棄</li> <li>・コレクションの評価指標</li> </ul>						
評価方法及び評価基準	<p>課題（主題付与）：20% 第5回、第6回、第8回、第9回に行う演習：各5%</p> <p>課題（目録作成）：20% 第11回に行う演習：10% 第12回に検討する書誌事項案：10%</p> <p>期末レポート：40% 学校図書館のコレクション計画を作成</p>									
課題等	<p>授業内の課題はその場で誤り等を指摘します。期末レポートは要件を満たしていない場合に再提出を求めます。各課題や期末レポートは、オンライン授業アプリを通じて提出してください。</p>									
事前事後学修	<p>授業内にいくつかの報告書やWebサイトを紹介することがあります。それらを授業後に参照してみてください。事後学修時間の目安：1日あたり30分程度</p>									
教材教科書参考書	<p>志保田務ほか、『情報資源組織法 演習問題集 第3版』，第一法規，ISBN:9784474072589</p>									
留意点	<p>授業の資料はオンライン授業アプリを通じて共有します。 第8回、第9回、第12回は、PCやスマートフォンを用いた検索を行います。機器は各自で用意してください。 授業に関する質問などは、tsunagu.honma@gmail.comにメールで連絡してください。</p>									

科目名	学習指導と学校図書館		科目ナンバリング	L-QULB2-02. NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L20003		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	庭田 瑞穂、玉 たみ子			授業 形態	講義	複数	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 本授業では、学校教育における学校図書館の役割と意義、そして課題について取り上げ、これからの学校教育における学校図書館の在り方について学びます。司書教諭の役割が多く求められる昨今、学校現場において司書教諭がどのような役割をしているのかについても理解を深めます。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>司書教諭としての任務遂行に関する次の事柄を理解する。  (1) 教育課程における学校図書館の役割と課題  (2) 学校図書館に関する諸制度・基準  (3) 学校図書館における人的・物的環境整備  (4) 学校図書館運営の実務の概要</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校図書館の役割について			普通教育における学校図書館の現状					庭田	
第2回	学校図書館の歴史			日本における学校図書館の歴史					庭田	
第3回	学校図書館制度と行政の役割			学校図書館制度の概要と図書司書設置					庭田	
第4回	学習指導要領と学校図書館			学習指導要領の変遷と学校図書館の関わり					庭田	
第5回	学習指導要領と学校図書館			学習指導要領の目的に応じた学校図書館の具体的役割					庭田	
第6回	分類番号と学校図書館の配置			学校図書館設置の効果的な方法					庭田	
第7回	学校図書館と授業との関わり 1			小学校国語科の学習と学校図書館との関わり					庭田 グループワーク ディスカッション	
第8回	学校図書館と授業との関わり 2			中学校国語科の学習と学校図書館との関わり (1)					庭田 グループワーク ディスカッション	
第9回	学校図書館と授業との関わり 3			中学校国語科の学習と学校図書館との関わり (2)					庭田 グループワーク ディスカッション	
第10回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					庭田 グループワーク ディスカッション	
第11回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					玉 グループワーク	
第12回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					庭田 グループワーク ディスカッション	
第13回	未来の学校図書館構想 1			図書館地図の作成 (実技)					庭田 グループワーク ディスカッション	
第14回	理想の学校図書館構想 2			学校図書館計画の作成					庭田 グループワーク ディスカッション	
第15回	まとめ			これからの学校図書館の在り方					庭田	
評価方法及び評価基準	<p>評価方法：「科目試験」は無し「授業への参加度」50% 「レポート」30% 「私の願う学校図書館レポート」20%  評価基準：秀 合計が90点に達した場合 優 合計が80点に達した場合 良 合計が70点に達した場合 可 合計が60点に達した場合</p>									
課題等	各講義終了後に記述するレポートと講義のまとめとして記述する「私の理想の学校図書館」									
事前事後学修	次回講義時に前回の講義における疑問や課題に関するレポートをまとめて紹介し、意見交流を行えるよう準備するため、週3時間程度の学修が必要。									
教科書 教科書 参考書	教科書：『学校図書館基本資料集』野口武悟・編 全国学校図書館協議会・監修 ISBN 978-4-7933-0101-8 教科書以外に、参考文献等はプリントとして配付する。									
留意点	司書教諭活動の実技の他、グループワーク、ディスカッションなど演習形式を取り入れる。									

科目名	読書と豊かな人間性		科目ナンバリング	L-QULB2-03. NLS	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	L20004		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	庭田 瑞穂			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>子どもたちに豊かな心を育成することのできる読書指導について取り上げます。子どもの発達段階に応じた読書指導の具体的な内容を、講義や演習を通して学びます。学校における読書指導と司書教諭の役割についても理解を深めます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>・読書の豊かさを体現する読書教育の在り方、読書指導の方法や手立てについて実践を通して知識や技能を身に付ける。</p> <p>・学校図書館における司書教諭の役割について理解を深める。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	読書の意義や目的			人間にとっての読書の意義や目的						
第2回	子どもたちの読書の現状			子どもたちの読書に対する意識の現状と変遷						
第3回	子どもたちの心の成長と読書			子どもたちの心の成長にもたらす読書の効果						
第4回	司書教諭と学校図書館			学校における図書司書の役割					グループワーク ディスカッション	
第5回	司書教諭と学校図書館			読書との出会いと効果的手法					グループワーク ディスカッション	
第6回	小学校国語科教育と読書との関連～			小学校における読書指導の実際						
第7回	中学校国語科教育と読書との関連～			中学校における読書指導の実際						
第8回	広がる読書と読書習慣の形成			読書の習慣形成を図るための指導方法の具体					グループワーク ディスカッション	
第9回	個人の読書から共同の読書へ①			進んで本を読む子どもを育てる指導の工夫					グループワーク ディスカッション	
第10回	個人の読書から共同の読書へ②			進んで本を読む子どもを育てる指導の具体的構想					グループワーク ディスカッション	
第11回	個人の読書から共同の読書へ③			子どもの主体性を引き出す読書指導の実際					グループワーク ディスカッション	
第12回	読書指導の実際 ～指導案作成を通じた授業の構想～			学習指導案作成を通じた読書指導の具体					グループワーク ディスカッション	
第13回	読書指導の実際 ～指導案作成を通じた授業の構想～			学習指導案作成を通じた読書指導の具体					模擬授業・討議	
第14回	読書指導の実際 ～指導案作成を通じた授業の構想～			学習指導案作成を通じた読書指導の具体					模擬授業・討議	
第15回	「豊かな人間性」を育成する読書教育 についてのまとめ			「読書」と「豊かな人間性」のかかわりのまとめ ※ 課題レポート提出						
評価方法 及び 評価基準	<p>評価方法：「科目試験」は無し「授業への参加度」50% 「日常のレポート」30% 「まとめのレポート」20%</p> <p>評価基準：秀 合計が90点に達した場合 優 合計が80点に達した場合 良 合計が70点に達した場合 可 合計が60点に達した場合</p>									
課題等	各講義終了後に記述するレポートと講義のまとめとして記述するレポート									
事前事後学修	各時間毎に出される課題をレポートとして提出。									
教材教科書参考書	講義に関係する参考文献等はプリントとして配付。									
留意点	司書教諭活動の実技の他、グループワーク・ディスカッション・模擬授業など演習形式を取り入れる。									

科目名	情報メディアの活用		科目ナンバリング	L-QULB2-04. NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L20005		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松本 悦子			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本講義では、社会とメディアの結びつきについて多角的に理解を深め、そのうえで、図書館で用いる基本的な情報メディアの特性を理解し、具体的な活用方法を学びます。また、司書教諭として、教育と情報をめぐる新たな課題に自ら取り組む力を養います。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会とメディアの関係についてメディア論の視点から理解を深める。</li> <li>2. 図書館における情報提供や情報発信、メディアの活用等に関する基礎的な能力を身に付ける。</li> <li>3. 情報メディアの活用における司書教諭の役割について、自分の言葉で伝えられるようになる。</li> </ol>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	オリエンテーション			この講義を受けるにあたって						
第2回	現代社会とメディア			現代社会における、私達の生活とメディアの関係性について考える						
第3回	情報メディアとコミュニケーション			情報化がコミュニケーションに与える影響について理解を深め、情報教育や情報発信について考える視座を身につける					グループワーク	
第4回	情報社会とメディア・リテラシー			メディア・リテラシーとは何か、基本的な理念を理解する						
第5回	教育の情報化と情報リテラシー教育			教育・学校における情報メディアの活用について現状を学ぶ						
第6回	情報メディアの活用と学校図書館			情報メディアの活用における学校図書館の機能について理解を深める					グループワーク	
第7回	情報検索と図書館の役割			データベースの活用など情報探索の基礎知識を身につける					反転学習	
第8回	情報メディアの特性と選択			図書館で活用するメディアの特性とその利用について学ぶ						
第9回	多様な学びとインターネット			多様な学びに必要な情報検索について基本的な理解を深める						
第10回	情報メディアとネットワーク形成			メディアの活用とコミュニティやネットワークの形成について考える						
第11回	グループワーク①学校図書館と情報発信			広報誌制作に取り組み、情報の選択や編集について具体的に学ぶ					グループワーク	
第12回	グループワーク②学校図書館と情報発信			広報誌制作に取り組み、情報発信の重要性について理解する					グループワーク	
第13回	プレゼンテーション			プレゼンを通じ、情報共有の意味、情報発信の意義を学ぶ					プレゼンテーション	
第14回	情報倫理と著作権			情報に関する倫理と権利をめぐる問題について学ぶ						
第15回	メディア社会の課題と展望			21世紀ICT社会における、メディアの可能性と課題を探る						
評価方法及び評価基準	講義の終わりに提出してもらったコメントカード（20%）、課題やグループワークの取り組み姿勢等（30%）、学期末の試験（もしくはレポート）（50%）。評価は上記の総合評価（合計100点）で行います。									
課題等	授業内で提出してもらったコメントカードについては次時間にフィードバックします。課題は講義内で随時出します。									
事前事後学修	日常生活において、身の回りのメディアを意識するよう心がけ、情報の送り手・受け手に関心を持つようになしてください。気になったメディアや表現方法などについて授業内で随時発表してもらいます。準備学習時間の目安：1日30分以上									
教材教科書参考書	使用しません。必要に応じて資料を配付します。									
留意点	随時質問を行い回答してもらおう（回答する）、双方向的な講義形態で授業を進めます。学生の主体的・積極的な発言や質問を期待します。そのために普段から多様なメディアに接するよう心がけましょう。社会の動きに敏感になると同時に、さまざまな視座を身につけるきっかけになり、学習効果を高められると思います。私語や他の学生の迷惑になる行為等は認めませんので注意してください。なお、講義の順番は必要に応じて入れ替わる場合があります。									

科目名	社会教育経営論Ⅰ		科目ナンバリング	L-QUS02-00. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	越村 康英			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>※「社会教育主事の資格」(社会教育士の称号)を取得する上で、「必修」の授業である。  社会教育主事とは、社会教育行政の要となる専門的教育職員である。したがって、この授業では、まず前提として、社会教育行政の仕組みや役割について基礎的理解を図る。その上で、社会教育行政を効果的に経営していくための指針である「社会教育計画」に着目し、その策定方法などについて、実際の事例も交えながら解説する。  また、授業の後半では、少子高齢化・人口減少社会において期待される「社会教育行政/社会教育主事(社会教育士)の今日的役割」について、各地の先駆的実践も紹介しながら探求する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>次の2点を柱として、社会教育主事(社会教育士)に求められる基礎的な知識を身に付けること。</p> <p>(1) 社会教育行政の経営(経営指針としての社会教育計画)</p> <p>(2) 住民の学習を核とした地域づくり—その組織化と支援</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の目的・内容・方法・評価について説明する。 「社会教育主事の資格」(社会教育士の称号)について解説する。						
第2回	社会教育の基本概念			社会教育法に即して社会教育の基本概念を解説する。						
第3回	社会教育行政の仕組みと役割①			教育委員会制度の概要と意義について解説する。						
第4回	社会教育行政の仕組みと役割②			社会教育法に即して社会教育行政の仕組みと基本的役割について解説する。						
第5回	社会教育行政の経営①—社会教育計画の意義			自治体社会教育計画の意義について解説する。						
第6回	社会教育行政の経営②—社会教育計画策定の視点・方法			自治体社会教育計画を策定する際の基本的な視点や方法について解説する。						
第7回	事例に学ぶ—住民参画の計画づくり			ケーススタディを通じて、住民参画の社会教育計画の策定について具体的に理解する。						
第8回	社会教育計画の実際①			グループに分かれ、国・都道府県・市町村の社会教育に関する計画について分析する。						
第9回	社会教育計画の実際②			グループに分かれ国・都道府県・市町村の社会教育に関する計画について分析する。						
第10回	社会教育計画の実際③			分析内容を発表・共有する。						
第11回	地域づくり(地域課題解決)と社会教育			少子高齢化・人口減少の進行などに伴生してきた地域課題について概説し、地域づくり(地域課題解決)に向けた社会教育の役割について考察する。						
第12回	学校・地域・地域の連携と社会教育			地域学校協働活動の推進など、学校・家庭・地域の連携に向けた政策や実践について概説する。						
第13回	地域づくりの担い手を育む			住民主体の地域課題解決学習の展開、その組織化と支援について解説する。						
第14回	社会教育におけるコーディネート			社会教育主事(社会教育士)に求められるコーディネーターとしての役割について概説する。						
第15回	授業のまとめ・ふり返り			地域に根ざした社会教育行政の展開と社会教育主事(社会教育士)に期待される役割について確認する。						
評価方法及び評価基準	<p>次の2点により総合的に評価する。</p> <p>(1) 50% 作成した発表資料の内容と発表への取り組み</p> <p>(2) 50% レポート</p>									
課題等	<p>毎回の授業内容をふり返り、関心をもった点や疑問点について自分自身で探求していくことを期待する。</p> <p>※探求方法が分からない場合は、積極的に質問・相談してほしい。</p>									
事前事後学修	<p>新聞やニュース、自治体の広報などを日常的に確認し、教育・学習に関する話題や議論について着目し、自分なりの見方・考え方を持てるようにする。週当たり3時間程度の学習が目安となる。</p>									
教材教科書参考書	<p>【教科書】購入が必要な教科書はない。レジュメ・資料などを配布し、授業を進める。</p> <p>【参考書】田中雅文・中村香編著『社会教育経営のフロンティア』玉川大学出版部、2019年 978-4-472-40588-4  その他の参考書は、随時、授業のなかで紹介する。</p>									
留意点	<p>授業への積極的な参加を期待する。</p>									

科目名	社会教育経営論2		科目ナンバリング	L-QUS02-01.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	坂本 徹			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会教育の役割、行政および民間による社会教育事業の実際を学び、それぞれの経営にかかる理念と方針を理解し、具体的な方策を身に着ける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育の役割を理解する</li> <li>・マネジメントプロセスを習得する</li> <li>・人材育成と地域づくりにおいて、行政と民間が果たす役割と特徴を理解する</li> <li>・多様な機関による社会教育の実際と特徴を理解する</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の趣旨、授業の進め方						
第2回	社会教育の守備範囲			社会教育の守備範囲						
第3回	事業の組み立てのプロセス			PDSサイクルを回すためのマネジメントプロセス						
第4回	行政による社会教育①			人材育成における行政の役割						
第5回	行政による社会教育②			行政による人材育成の実際						
第6回	行政による社会教育③			地域づくりと行政						
第7回	民間による社会教育①			人材育成における民間の役割						
第8回	民間による社会教育②			民間による人材育成の実際						
第9回	民間による社会教育③			地域づくりと民間組織						
第10回	社会教育事業の組み立て実践①			企画と設計						
第11回	社会教育事業の組み立て実践②			取材と情報収集						
第12回	社会教育事業の組み立て実践③			要項作成と広報						
第13回	社会教育事業の組み立て実践④			募集と運営						
第14回	社会教育事業の組み立て実践⑤			事業評価						
第15回	まとめ・振り返り			授業のまとめと総括						
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参画姿勢と理解度を中心に総合的に判断する。</li> <li>・ 授業への参画姿勢（意欲、積極性） 50%</li> <li>・ 理解度（課題） 25%</li> <li>・ 理解度（テスト） 25%</li> </ul>									
課題等	授業において適宜提示する。									
事前事後学修	ニュースや新聞、ネット等における社会教育関連の事項をチェックすること。									
教材教科書参考書	必要に応じてプリント等を配布する。									
留意点	授業への参画を評価対象とするので積極的に取り組むこと。									

科目名	生涯学習支援論Ⅰ		科目ナンバリング	L-QUS02-02. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40063		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	土井 良浩			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】          本科目では、講義を通じて地域社会における生涯学習を支援するために有効なファシリテーションの理論と技術についての理解を深め、グループワークにおけるファシリテーションの実演やワークショップのプログラムデザインなどを通じてファシリテーションの技術の習得を目指す。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①講義を通じて、地域社会における生涯学習を支援するために有効なファシリテーションの基本的な理論と技術を理解する。          ②体験や実演を通じて、ファシリテーションの基本的技術やそれを活用したワークショップの企画・運営ノウハウを習得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	オリエンテーション			講義の概要と到達目標、スケジュール等を確認する						
第2回	ワークショップとは？／お互いを知り合わせる方法「アイスブレイク」①			・ワークショップの意味、様々な手法の解説 ・初対面の人が打ち解け合うための方法の解説・演習					グループワーク	
第3回	ファシリテーションとは？／お互いを知り合わせる方法「アイスブレイク」②			・ファシリテーションの目的や役割の解説 ・初対面の人が打ち解け合うための方法の解説・演習					グループワーク	
第4回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」①			ワークショップの基本手法「ポストイット・トーク」の解説と体験					グループワーク	
第5回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」②			「ポストイット・トーク」ファシリテーターの実演①					グループワーク	
第6回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」③			「ポストイット・トーク」ファシリテーターの実演②					グループワーク	
第7回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」基礎編①			ファシリテーションの基本技術「ファシリテーショングラフィック」の解説と体験					ワーク	
第8回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」基礎編②			「ファシリテーショングラフィック」の体験					グループワーク	
第9回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」応用編			ミーティングにおける「ファシリテーショングラフィック」の実演					グループワーク PBL	
第10回	身体を使って学ぶ方法「まち歩き」			地域の現状把握や将来イメージづくりの基本となるフィールドワーク手法「まち歩き」の体験					フィールドワーク グループワーク	
第11回	ワークショップのプログラムデザイン／興味関心の近い人たちを束ねる方法			ワークショップのプログラムのデザイン方法の解説、興味関心の近いひとを束ねる方法「マグネットテーブル」の解説・演習					チーム分け グループワーク PBL	
第12回	ワークショップのプログラムデザイン／アイデアに形を与える方法			ワークショップのプログラムデザインの演習（ワークシート作成）					グループワーク PBL	
第13回	ワークショッププログラムの実演①			第12回で作成したワークショップのプログラムの実演①					グループワーク PBL プレゼンテーション	
第14回	ワークショッププログラムの実演②			第12回で作成したワークショップのプログラムの実演②					グループワーク PBL プレゼンテーション	
第15回	プロセスデザインと参加のデザイン／授業のまとめ			・地域課題の解決につながる複数回のワークショップのプロセスのデザインや参加のデザインの解説					ワーク	
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法：授業時のワークへの取り組み・課題の充実度から総合的に判断する</li> <li>・評価基準：ファシリテーションやワークショップの基本的技術を理解し、意欲的に実践できたか</li> </ul>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の集大成として、ワークショップのプログラムデザイン、ワークショップの実施、実施レポートの作成を行う</li> <li>・ファシリテーションやワークショップの運営方法について改良が必要な場合は演習時に指導する</li> </ul>									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：必要な場合は前の回の終わりに提示する</li> <li>・事後学習：授業中に体験したことを、普段の活動に活用するように努めること</li> </ul>									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業当日に使用する教材・資料は授業開始時に配布する</li> <li>・参考書については授業時に現物を交えて紹介する</li> </ul>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく演習に取り組むと同時に、どうしたら「楽しい場」「有意義な場」を作れるか考える機会にしてほしい</li> <li>・毎回の授業の終了時には「振り返りシート」を提出する</li> </ul>									

科目名	生涯学習支援論2		科目ナンバリング	L-QUS02-03. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40064		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>生涯学習支援のための理論と技術について、公民館における活動を中心に、実例を踏まえながら検討する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	各機関ごと、対象ごとの学習プログラムの構成や支援の在り方について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	生涯学習支援の現状			生涯学習支援の現状について、弘前市の事例を中心に学習する。						
第3回	生涯学習支援とは（1）			中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」を踏まえ、生涯学習支援の理念と構造について考える。						
第4回	生涯学習支援とは（2）			「子ども」に焦点を当て、学習支援の根本的な在り方について考える。						
第5回	博物館における生涯学習支援			博物館における生涯学習支援について、実践例をもとに考える。				グループワーク		
第6回	図書館における生涯学習支援			図書館における生涯学習支援について、実践例をもとに考える。				グループワーク		
第7回	子どもを対象とした生涯学習支援			子どもを対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。				グループワーク		
第8回	青年・若者を対象とした生涯学習支援			青年・若者を対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。				グループワーク		
第9回	大人を対象とした生涯学習支援			大人を対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。				グループワーク		
第10回	高齢者を対象とした生涯学習支援			高齢者を対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。				グループワーク		
第11回	生涯学習支援とSNS			生涯学習支援におけるSNSの活用について、実践例をもとに考える。				グループワーク		
第12回	生涯学習支援の実例（1）			生涯学習支援の実例をもとに考える。						
第13回	生涯学習支援の実例（2）			生涯学習支援の実例をもとに考える。				反転学習 レポート提出		
第14回	レポート発表			レポート発表。				プレゼンテーション		
第15回	レポート発表、まとめ			レポート発表、授業の総括。				プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。									
教材教科書参考書	【参考書】高井正、中村香編著『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019、ISBN:978-4-472-40587-7									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	社会教育演習		科目ナンバリング	L-QUS04-10. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	L40065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	坂本 徹			授業 形態	演習	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>社会における問題解決の手法を、ヒューマンライブラリーの運営を通して実践的に身に着ける。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の解決方法としての「社会教育事業」について理解する</li> <li>・ヒューマンライブラリーを社会教育に活用する運営方法を習得する</li> <li>・既存の手法にとらわれず柔軟に社会教育を行う姿勢を身に着ける</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の趣旨、授業の進め方						
第2回	事例研究①			地域課題の解決方法としての「社会教育事業」						
第3回	事例研究②			ヒューマンライブラリーとJinzai-Japan						
第4回	事例研究③			ヒューマンライブラリーの実際						
第5回	事例研究④			ヒューマンライブラリーの評価						
第6回	実践演習の計画			社会教育におけるヒューマンライブラリーの可能性						
第7回	実践演習①			課題の設定						
第8回	実践演習②			ヒューマンライブラリーの設計						
第9回	実践演習③			話し手の募集とその手法						
第10回	実践演習④			聞き手の募集とその手法						
第11回	実践演習⑤			募集チラシ・ポスターの作成						
第12回	実践演習⑥			会場の設計と当日運営の準備						
第13回	実践演習⑦			「ヒューマンライブラリー in 弘前学院大学」の実施						
第14回	実践演習⑧			ヒューマンライブラリーの振り返り						
第15回	まとめ・振り返り			授業のまとめと総括						
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参画姿勢と理解度を中心に総合的に判断する。</li> <li>・ 授業への参画姿勢（意欲、積極性） 50%</li> <li>・ 理解度（課題） 25%</li> <li>・ 理解度（テスト） 25%</li> </ul>									
課題等	授業において適宜提示する。									
事前事後学修	ニュースや新聞、ネット記事等における社会教育関連の事項をチェックすること。									
教材教科書参考書	必要に応じてプリント等を配布する。									
留意点	授業への参画姿勢を評価対象とするので積極的に取り組むこと。									

科目名	社会教育実習		科目ナンバリング	L-QUS04-11.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目コード	L40055		90時間				
区分	資格関係科目		担当者名	坂本 徹			授業 形態	実習	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会教育の意義や重要性について理解するために具体的な業務を体験する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	社会教育事業や社会教育施設の役割を理解し、運営及び業務についての知識を得る。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について		第16回	実習②	各自の知人の協力を得て、インタビュー実習を行う				
第2回	社会教育事業の実際①	行政による社会教育事業について知る		第17回		相手とスケジュールを合わせて2時間程度実施する				
第3回	社会教育事業の実際②	民間による社会教育事業について知る		第18回						
第4回	施設実習の準備①	社会教育施設の種類と役割を知る		第19回	ギビングツリー実習の準備①	ギビングツリーとは何かを知る				
第5回	施設実習の準備②	社会教育施設の業務について知る		第20回	ギビングツリー実習の準備②	ギビングツリーの実施方法を学ぶ				
第6回	施設実習の準備③	社会教育施設の現状と問題点を理解する		第21回	ギビングツリー実習の準備③	ギビングツリーの社会教育的意義を理解する				
第7回	施設実習の準備④	社会教育施設における実習の日程や注意点を確認する		第22回	ギビングツリー実習の準備④	ギビングツリー実習の日程や注意点を確認する				
第8回	実習①	弘前市教育委員会の協力を得て、公民館等においての実習を行う  夏季休業中を中心に24～32時間（3～4日間）程度実施する		第23回	実習③	NPOの協力を得て、NPO法人日本人財発掘育成協会と弘前学院大学が共催するギビングツリーにおける実習を行う  11月～12月の土日を中心に16～24時間程度実施する				
第9回				第24回						
第10回				第25回						
第11回				第26回						
第12回				第27回						
第13回				第28回						
第14回	インタビュー実習の準備①	インタビュー実習の意義について理解する		第29回	実習の振り返り	実習を通じて学んだことを共有する				
第15回	インタビュー実習の準備②	インタビュー実習の日程や注意点を確認する		第30回	次年度の取組に向けて	次年度に取り組む学習について確認する				
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育の意義や課題について、実習を通して体感的に探求し理解できたかを評価する。</li> <li>授業への参画、実習中の勤務態度などから総合的に判断する。</li> </ul>									
課題等	適宜、レポート形式による課題を課す。									
事前事後学修	ニュースや新聞、ネット記事等における社会教育関連の事項をチェックすること。									
教材教科書参考書	社会教育実習ノート									
留意点	授業への参画を評価対象とするので積極的に取り組むこと。									

科目名	子ども・若者と社会教育		科目ナンバリング	L-QUS03-21.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40067		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	大坪 正一			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士									選択必修
授業の概要等	[授業の主旨]									
	現代の子ども・若者の抱える諸問題を取り上げ、地域の教育力を高めるための学習課題を検討する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。									
到達目標	現代日本の子ども・若者の現状と課題を理解すること。地域での学習課題を整理できること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			講義の進め方について						
第2回	子ども・若者の問題とは何か			何を子ども・若者の問題として考えているのかを出し合って整理する				ディスカッション・ディベート		
第3回	青少年の健全育成と地域			「健全育成」という考え方について検討する						
第4回	学校教育をめぐる諸問題1			子ども・若者の問題行動について						
第5回	学校教育をめぐる諸問題2			学校嫌いについて						
第6回	学校教育をめぐる諸問題3			競争について						
第7回	学校教育をめぐる諸問題4			いじめについて						
第8回	地域社会をめぐる諸問題1			子どもの居場所について						
第9回	地域社会をめぐる諸問題2			地域の教育力について						
第10回	子どもの貧困1			子どもの貧困の実態						
第11回	子どもの貧困2			子どもの貧困問題解決の課題						
第12回	子どもの貧困の社会的要因			新自由主義改革と貧困問題						
第13回	地域社会教育の課題			学校教育と社会教育の関連について						
第14回	質疑応答			これまでの講義について質疑				ディスカッション・ディベート		
第15回	まとめ			試験とまとめ						
評価方法及び評価基準	授業への参加度30%、定期試験70% 到達目標に対応して青少年問題解決のための学習課題に関する問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。									
課題等	自分の青少年時代を客観的に分析すること									
事前事後学修	講義で質問ができるように考えてくること									
教材教科書参考書	講義において指示する									
留意点	<a href="mailto:tubo4@hirosaki-u.ac.jp">tubo4@hirosaki-u.ac.jp</a>									

科目名	博物館教育論		科目ナンバリング	L-QUCR3-06. NSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L30058		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>博物館教育の意義と理念、博物館教育の歴史を踏まえ、博物館教育の現状と課題、今後の可能性について検討する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	博物館の教育活動の意味、意義について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	博物館教育の理念（1）			博物館における教育とは何か考える。						
第3回	博物館教育の理念（2）			博物館教育の概念について学習する。						
第4回	博物館教育の歴史			博物館教育の歴史について学習する。						
第5回	博物館教育の目的と方法			博物館教育の目的と方法について、学校教育との違いや世界各地での実践例を踏まえて考える。						
第6回	博物館教育の具体（1）			インタープリテーションやレファレンス活動について学習する。						
第7回	博物館教育の具体（2）			アウトリーチ活動やワークショップの展開について学習する。				レポート提出		
第8回	中間レポート発表			中間レポートを発表する。				プレゼンテーション		
第9回	博物館と学校教育（1）			博物館と学校教育の関係性について、歴史的経緯を踏まえて検討する。						
第10回	博物館と学校教育（2）			博学連携について、アートカードの実践例などから、現状と課題について学習する。				グループワーク		
第11回	博物館における教育プログラムの展開（1）			プログラムを構成する上での教育計画について、実例を踏まえて学習する。						
第12回	博物館における教育プログラムの展開（2）			教育事業の展開について、その位置付けや分類をもとに学習する。						
第13回	博物館教育の実例			対話型鑑賞法の実践例を検証するとともに、博物館教育の現状と課題について考える。				グループワーク レポート提出		
第14回	期末レポート発表（1）			期末レポートを発表する。				プレゼンテーション		
第15回	期末レポート発表（2）			期末レポートを発表する。授業の総括。				プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材教科書参考書	適宜紹介する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	社会福祉論A 【2021年度以降入学生】		科目ナンバリング	L-QUS03-30.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40070		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士									選択必修
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、社会福祉政策を学ぶ。また、生活問題を抱えることが自己責任として捉えられてきたことについて、科学的に認識することによって、そもそも社会福祉という営みが、どのように人々に受け入れられていたのかについて講義する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	社会福祉政策及び社会福祉の制度を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	社会福祉とは何か			社会福祉と「福祉」との違い、社会福祉の定義				小集団活動・文献複写		
第2回	社会福祉の存在意義とは			社会福祉の存在理由を問う						
第3回	社会福祉政策と社会問題①			社会福祉政策の対象とは				文献複写		
第4回	社会福祉政策と社会問題②			社会福祉の対象としての生活問題				生活問題理解のための食卓の回想		
第5回	社会福祉政策の現代的課題			社会的排除と社会的包摂						
第6回	社会福祉の歴史を学ぶにあたって			社会福祉の歴史を学ぶ必要はないか？						
第7回	欧米の社会福祉の歴史①			欧米の前近代社会における社会福祉の歴史						
第8回	欧米の社会福祉の歴史②			欧米の近代社会における社会福祉の歴史①						
第9回	欧米の社会福祉の歴史③			欧米の近代社会における社会福祉の歴史②						
第10回	欧米の社会福祉の歴史④			欧米の現代社会における社会福祉の歴史①						
第11回	欧米の社会福祉の歴史⑤			欧米の現代社会における社会福祉の歴史②						
第12回	社会福祉政策の論点と構成要素①			社会福祉政策						
第13回	社会福祉政策の論点と構成要素②			社会福祉における普遍主義・選別主義						
第14回	社会福祉政策の論点と構成要素③			自己決定とパターナリズム、スティグマ・エンパワーメント				文献複写		
第15回	社会福祉政策の論点と構成要素④			社会福祉政策の国際比較、福祉国家論						
評価方法及び評価基準	試験（客観式・短答式）のみで評価する。尚、試験範囲には、講義で使用したテキストや指示した参考文献なども、すべてを含む。									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事後学修	学術雑誌の論文の閲覧や複写について、その都度詳しい指示をする。									
教材教科書参考書	井村圭壮・藤原正範編(2007)『日本社会福祉史』勁草書房, ISBN:978-4-326-60197-4 岩崎晋也(2018)『福祉原理 社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか The principles of Welfare:Why Has Society Been Creating a System of Helping Strangers?』有斐閣, ISBN:978-4-641-17442-9 室田保夫(2018)『社会福祉 新・基礎からの社会福祉』ミネルヴァ書房, ISBN:978-4-623-08295-7 ミネルヴァ書房編集委員会編集部(2023)『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房, ISBN:未定									
留意点	遅刻・私語厳禁、ただし公共交通機関遅延の場合は、遅延証明書を持参のこと。									

科目名	障害者の生涯学習		科目ナンバリング	L-QUS03-31.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40069		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名					授業 形態	講義	単独
	社会教育士	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	博物館概論		科目ナンバリング	L-QUCR2-00. NSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L30052		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>博物館や学芸員について、基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	博物館や学芸員に関する歴史や現状について理解し、取り組みについて関心を持つ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	宣教師館見学			国の重要文化財に指定されている外人宣教師館を見学し、その歴史を学習する。					フィールドワーク	
第3回	博物館とは			博物館とは何か、歴史的経緯を中心に学習する。						
第4回	博物館法と関連法規			博物館法や関連する法律について学習する。						
第5回	弘前大学北日本考古学研究センター見学			弘前大学北日本考古学研究センターを見学し、展示の在り方について学習する。					フィールドワーク	
第6回	博物館史（1）			明治時代～終戦までの博物館・博物館学の歴史的展開について学習する。						
第7回	博物館史（2）			戦後～現在までの博物館・博物館学の歴史的展開について学習する。					レポート提出	
第8回	レポート発表			レポートを発表する。					プレゼンテーション	
第9回	学芸員の業務			学芸員の仕事について、博物館法や実践例をもとに学習する。					ディスカッション	
第10回	博物館資料の保全			博物館資料の取り扱いについて学習する。					実習	
第11回	博物館資料の収集			博物館における収集やコレクションの形成について学習する。						
第12回	教育普及活動			博物館における教育普及活動の種類と特徴について学ぶ。						
第13回	博物館経営			博物館経営とは何か、基本的考え方について学習する。						
第14回	博物館と地域振興			博物館と地域振興の関係性について具体例をもとに学習する。						
第15回	試験、まとめ			筆記試験と授業のまとめを行う。					試験	
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（20%）、試験（50%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材教科書参考書	適宜紹介する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	博物館経営論		科目ナンバリング	L-QUCR3-01.NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30059		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>博物館経営の現状と課題について、具体例を踏まえて理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達 目標	博物館の現状と課題を指摘し、自らの意見を述べるができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	博物館経営とは			ミュージアム・マネジメントについて考える。						
第3回	博物館の実情			文部科学省の社会教育調査や日本博物館協会の博物館総合調査などをもとに、博物館の実情について考える。						
第4回	組織と倫理			博物館を支える組織と職業倫理について学習する。						
第5回	博物館と行財政（1）			博物館を取り巻く法体系や博物館行政の在り方について考える。						
第6回	博物館と行財政（2）			指定管理者制度の在り方や博物館財政について学習する。						
第7回	博物館と広報活動（1）			博物館における広報とは何か考え、広報計画について学ぶ。					反転学習	
第8回	博物館と広報活動（2）			博物館広報の具体例や取材対応について学習する。						
第9回	博物館経営と付帯施設			博物館における付帯施設の位置付けや役割について、ミュージアム・ショップ、レストラン等の事例から学習する。					反転学習	
第10回	博物館経営における連携			博物館の連携や地域との協働について、具体例をもとに学習する。						
第11回	博物館経営と評価（1）			博物館経営の評価について背景や計画策定を中心に学習する。						
第12回	博物館経営と評価（2）			博物館経営の評価について、実践例や評価導入の意義について学習する。					レポート提出	
第13回	レポート発表（1）			博物館の年報をもとに、博物館経営の実例についてプレゼンする。あわせて他者の発表を評価する。					プレゼンテーション	
第14回	レポート発表（2）			博物館の年報をもとに、博物館経営の実例についてプレゼンする。あわせて他者の発表を評価する。					プレゼンテーション	
第15回	レポート発表（3）、まとめ			博物館の年報をもとに、博物館経営の実例についてプレゼンする。あわせて他者の発表を評価する。また、授業の総括を行う。					プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題 等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前 事後 学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材 教科書 参考書	適宜紹介する。									
留意 点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	博物館資料論		科目ナンバリング	L-QUCR3-02. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L30053		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>資料は、博物館の土台となるものであり、資料がなければ展示を成り立たせることが出来ない。そこで、博物館機能の根幹をなす資料の概念や収集、整理、保管、活用等について様々な具体例をもとに理解を深める。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館資料とは何かを説明できる。</li> <li>・博物館資料にかかる、収集、整理、保管、活用等の学芸員の業務について具体的に把握し、説明できる。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方。博物館資料の概念について学習する。						
第2回	一次資料と二次資料			一次資料と二次資料それぞれの重要性について、具体例をもとに理解する。						
第3回	博物館における調査・研究（1）			調査・研究活動やその方法について学習する。						
第4回	博物館における調査・研究（2）			調査・研究活動と博物館の諸活動への還元について学習する。						
第5回	博物館における資料収集（1）			収集理念、方法、資料化、コレクションの形成について学習する。						
第6回	博物館における資料収集（2）			資料収集における倫理の問題について学習する。						
第7回	博物館における資料の分類			資料の分類とその意義について学習する。					レポート提出	
第8回	中間レポート発表			中間レポートを発表する。					プレゼンテーション	
第9回	博物館資料の修理・修復			修理・修復の目的や方法について学習する。						
第10回	博物館における資料の保管			IPM（総合的有害生物管理）、温度・湿度等に関する理解を深める。						
第11回	博物館資料の活用とその方法（1）			コロナ禍における博物館資料の活用について、具体例をもとに学習する。					反転学習	
第12回	博物館資料の活用とその方法（2）			博物館資料の活用について、海外の事例をもとに考える。					反転学習	
第13回	博物館資料の活用とその方法（3）			博物館資料の活用について、国内の事例をもとに考える。					レポート提出	
第14回	期末レポート発表（1）			期末レポートを発表する。					プレゼンテーション	
第15回	期末レポート発表（2）			期末レポートを発表する。授業の総括。					プレゼンテーション	
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材教科書参考書	適宜紹介する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	博物館資料保存論		科目ナンバリング	L-QUCR3-03. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 博物館に收藏されている資料のほとんどは、本来の耐用年数を遥かに超えて残されているもの、あるいはそもそも保存に適さないものを人工的な保存処理によって残されているものであり、日常的に劣化や破損、喪失の危険にさらされている。資料の現状を維持し、将来に残すためには資料保存上悪影響となる要因を知り、この要因に対して個別に対応することが必要となる。学芸員は貴重な資料を管理し、将来に残すというcollection managerとしての役割も果たさなければならない。博物館学芸員として最低限知っておくべき資料保存に関する基本的な考え方と基礎的な知識を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>本講義では事例紹介をまじえながら、資料保存の基礎を学ぶ。博物館が收藏する様々な性質の資料について、それらがさらされている環境と、そこから生じうる劣化や喪失等、博物館資料の保存管理上の悪影響について理解すること、さらに、その影響を軽減、回避するために博物館ではどのような対策を講じているか理解することを目指す。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方。保存に関して、一般家庭でどのような工夫や対策がなされているか考える。						
第2回	博物館における資料保存とは			資料保存とは何かについて、文化財保護の歴史や資料劣化の要因、保存に関する倫理等の観点から学習する。					反転学習	
第3回	温湿度環境			博物館の温湿度環境に関して、温湿度の変化が資料にどのような影響を与えるか、どのような現象が見られるかについて考える。					反転学習	
第4回	光と照明			光の性質や文化財に与える影響、博物館における照明手法について学習する。					反転学習	
第5回	室内空気汚染			空気中の汚染物質について、発生要因、種類、資料に与える影響などについて知り、その対策方法について考える。					反転学習	
第6回	生物被害			虫やカビが資料保存に与える影響を学び、対策方法について考える。					反転学習	
第7回	伝統的保存方法			伝統的に行われてきた防虫対策について知り、正倉院を事例に具体的な方法を学習する。					反転学習	
第8回	博物館資料の被災防止と救援活動			文化財の被災を防止するための対策や被災時の対応について、具体的に学習する。					反転学習	
第9回	資料の状態調査による現状把握			資料の保全をはかるための調査手法について学ぶ。					反転学習	
第10回	修復・修理			紙資料を例に、修復の基本的な考え方や具体的な手順について学習する。					反転学習	
第11回	資料の梱包と輸送			資料を移動する際の梱包方法、輸送方法について学習する。					反転学習	
第12回	地域資源の保存と活用			地域資源として資料の保存と活用を両立させる考え方について学ぶ。					反転学習	
第13回	地域文化の可能性			地域文化として資料を活用している具体例を知り、今後の博物館に期待される役割等について考える。					レポート提出	
第14回	レポート発表（1）			期末レポートを発表する。					プレゼンテーション	
第15回	レポート発表（2）			期末レポートを発表する。授業の総括。					プレゼンテーション	
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	事前学修していることを前提で授業を進めるため、必ず予習を行うこと。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材教科書参考書	【教科書】岩崎武志（編著）『博物館資料保存論』講談社、2012年、ISBN 978-4-06-156503-6									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	博物館展示論		科目ナンバリング	L-QUCR3-04. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L30062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 市民にとって最も身近な博物館活動は展示であり、市民が博物館を訪れるきっかけは魅力的な展示を見るためとも言える。博物館の顔とも言える「展示」の理念と具体的方法について、理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達 目標	博物館における主要な機能である展示の意義や目的を学び、展示において必要とされる知識を身につけ、展示を観覧・観察する目を養うことを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	博物館展示論とは			博物館の定義や機能、展示に関する基本的事項について学習する。					グループディスカッション	
第2回	博物館展示の理念			博物館展示の理念について、博物館法やICOMの規約等をもとに学習する。						
第3回	博物館展示の歴史			博物館展示の歴史や展示論史の展開について理解を深める。						
第4回	構想と企画			展示設計や動線計画など、博物館において展示を作り上げる過程について、実例を紹介、解説する。						
第5回	展示ケース、照明			展示ケースの種類や特徴、照明計画や照明演出について解説する。						
第6回	パネル、映像展示			展示パネルや映像展示について、種類や展示効果について解説する。						
第7回	参加型展示、ユニバーサルデザイン			参加型展示やユニバーサルデザインなど、展示を構成する要素や演出について解説する。						
第8回	中間レポート発表			中間レポートを発表する。あわせて他者の発表を通じ、多様な物事の捉え方を学ぶ。					プレゼンテーション	
第9回	展示の技法			展示手法やモノの見え方について学習する。						
第10回	注意事項			展示に際しての注意事項を、リスクマネジメントの観点から学習する。						
第11回	図録			図録の読み比べを行い、内容のまとめ方や工夫について学習する。						
第12回	チラシ、ポスター			ポスター、チラシの作成など、展覧会の開催にあたり必要な事柄や広報活動について解説する。					グループディスカッション	
第13回	展示計画			これまでに学んだことを踏まえ、展示計画を考え発表する。					反転学習 レポート提出	
第14回	期末レポート発表（1）			期末レポートを発表する。あわせて他者の発表を通じ、多様な物事の捉え方を学ぶ。					プレゼンテーション	
第15回	期末レポート発表（2）、まとめ			期末レポートを発表する。あわせて他者の発表を通じ、多様な物事の捉え方を学ぶ。授業の総括。					プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する。									
課題 等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前 事後 学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材 教科書 参考書	適宜紹介する。									
留意 点	授業に積極的に参加し、発言すること。									

科目名	博物館情報・メディア論		科目ナンバリング	L-QUCR3-05. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30060		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松本 悦子				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本講義ではメディア論の基礎的な知識や方法論を学び、情報発信とメディアの意義について理解を深め、グローバル化とデジタル化が進む21世紀の社会における博物館のあり方について考える。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 社会とコミュニケーションをめぐる問題についてメディア論の視点から理解を深める。</p> <p>2. 博物館・美術館における情報提供や情報発信、メディアの活用等に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>3. メディアとしての博物館・美術館の役割と意義について自分の言葉で説明できるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考
第1回	オリエンテーション			この講義を受けるにあたって						
第2回	メディア論の視座			メディア論の基本的な視座について学ぶ						
第3回	社会の変容とメディアの変遷			メディアの歴史的な展開を社会の変容と結びつけながら学ぶ						グループワーク
第4回	情報の意義と社会			現代社会と情報の関係性について理解を深める						
第5回	ICTと博物館			ICT社会における博物館の役割について具体的に考える						グループワーク
第6回	博物館と情報メディアの意義			博物館における情報・メディアの意義について理解する						
第7回	情報提供とメディア機器			博物館における情報提供とメディアの関係について学ぶ						反転学習
第8回	博物館展示と情報発信			博物館展示における情報発信の方法や意義について学ぶ						
第9回	情報の蓄積とデジタル化			デジタル時代の情報の蓄積について、その方法と課題について学ぶ						
第10回	博物館の活動と情報化			博物館の活動と外部への情報発信について理解を深める						
第11回	ネットワーク時代と博物館			情報の共有とネットワークについて現状を知る						
第12回	市民参加型時代と博物館			博物館と市民の関係について具体的な取り組みを知る						ディスカッション
第13回	博物館と地域社会			ユニバーサルデザインなどを通じ博物館の新たな役割を考える						グループワーク
第14回	これからの社会と博物館			デジタル化が進む社会における博物館の意義について理解を深める						
第15回	情報・権利・倫理			情報に関する権利と倫理をめぐる問題について考える						
評価方法及び評価基準	講義の終わりに提出してもらったコメントカード（20%）、課題やグループワークの取り組み姿勢等（30%）、学期末の試験（もしくはレポート）（50%）。評価は上記の総合評価（合計100点）で行います。									
課題等	授業内で提出してもらったコメントカードについては次時間にフィードバックします。課題は講義内で随時出します。									
事前事後学修	日頃からネット以外の情報媒体（新聞、ラジオ、広報紙など）に気を配り、情報の送り手・受け手に関心を持つようにしてください。気になったメディアや情報、表現方法などについて授業内で随時発表してもらいます。準備学習時間の目安：1日30分以上									
教材教科書参考書	使用しません。必要に応じて資料を配付します。									
留意点	随時質問を行い回答してもらおう（回答する）、双方向的な講義形態で授業を進めます。学生の主体的・積極的な発言や質問を期待します。そのためにも普段から多様なメディアに接するよう心がけましょう。社会の動きに敏感になると同時に、さまざまな視座を身につけるきっかけになり、学習効果を高められると思います。私語や他の学生の迷惑になる行為等は認めませんので注意してください。なお、講義の順番は必要に応じて入れ替わる場合があります。									

科目名	博物館実習 I		科目ナンバリング	L-QUCR4-07. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目コード	L30056		90時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太			授業 形態	実習	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 県内外の博物館の見学、および本学が所有する資料（国指定重要文化財・弘前学院宣教師館）、地域資源の活用を通じ、学芸員に必要な資料の取り扱いについて実践的に学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>学内実習や見学実習を通じ、博物館の多様な実態や学芸員の業務を理解し、実践的な能力を養うとともに、現地実習に向け準備を行う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）		備考	
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について			第16回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第2回	調査計画づくり	1年間を通じて課題とするテーマを決定する			第17回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第3回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う			第18回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第4回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う			第19回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第5回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う			第20回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第6回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う			第21回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第7回	資料収集	テーマに関する資料・先行研究の検討を行う			第22回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第8回	中間まとめ	資料収集・視察で見えてきたことの確認			第23回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案			
第9回	中間発表	途中経過を発表する			第24回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案			
第10回	視察	宣教師館の視察を行う			第25回	先輩の実習報告	実習報告に参加する			
第11回	見学実習	見学実習のオリエンテーション			第26回	先輩の実習報告	実習報告に参加する			
第12回	見学実習	見学実習①			第27回	先輩の実習報告	実習報告に参加する			
第13回	見学実習	見学実習②			第28回	先輩の実習報告	実習報告に参加する			
第14回	見学実習	見学実習③			第29回	現地実習先の決定	実習館を決定し手続きを進める			
第15回	見学実習	見学実習④			第30回	まとめ	1年間の活動を振り返る			
評価方法及び評価基準	<p>作業への取り組み、経過報告、完成したレポートの内容、発表から総合的に判断する。 自らが設定したテーマについて、資料・データに基づき調査研究し、レポート作成を通じて報告できたか。また相互に質疑・応答ができたか。</p>									
課題等	<p>課題レポートは返却し、確認を行う。</p>									
事前事後学修	<p>平時から新聞やニュース、自治体の広報などを見るようにする。また博物館や文化財の見学に足を運ぶようにするとともに、それらをめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。</p>									
教材教科書参考書	<p>授業内容に応じてレジュメのほか、適宜、文献や参考資料などを紹介する。</p>									
留意点	<p>授業への積極的参画・発言を求める。毎回の終了時には授業に関するコメントシートを提出する。</p>									

科目名	博物館実習Ⅱ		科目ナンバリング	L-QUCR4-08. NC	単位数 時間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	L30057		45時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太			授業 形態	実習	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕  実習を通じて、博物館の複雑で重要な意味や、博物館が抱える問題を具体的に・経験的に把握する。また、そのための事前・事後指導を行う。  〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕  ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2-2に関連している。</p>									
到達目標	博物館の現場において日々体験する仕事に関心を持ち、博物館の運営や学芸員の職務について実践的に理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回	青森県内外の博物館で、5日～2週間の実務実習を行う。									
第6回	実習はおおむね夏期休業中に実施する。実習期間・職務内容は実習館によって異なる。									
第7回	実習にあたり、前期授業時間を使って事前学習・調査、実習先での注意事項の説明を行う。									
第8回	実習後はその成果をプレゼンテーションで発表し、実習での学びを定着・共有する。									
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準	授業時・実習への積極的な関心・参加姿勢、課題への取り組み、実習先での勤務実態の報告から、博物館実習を通じ専門的な知識・技能を修得できたかを確認し、総合的に判断する。									
課題等	課題レポート、実習ノートは適宜返却し、確認を行う。									
事前事後学修	平時から新聞やニュース、自治体の広報などを見るようにする。また博物館や文化財の見学に足を運ぶようにするとともに、それらをめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。									
教材教科書参考書	実習ノート、そのほか適宜提示する。									
留意点	前年度までに「博物館実習Ⅰ」を履修していること。実習に対し真摯な姿勢を求める。									